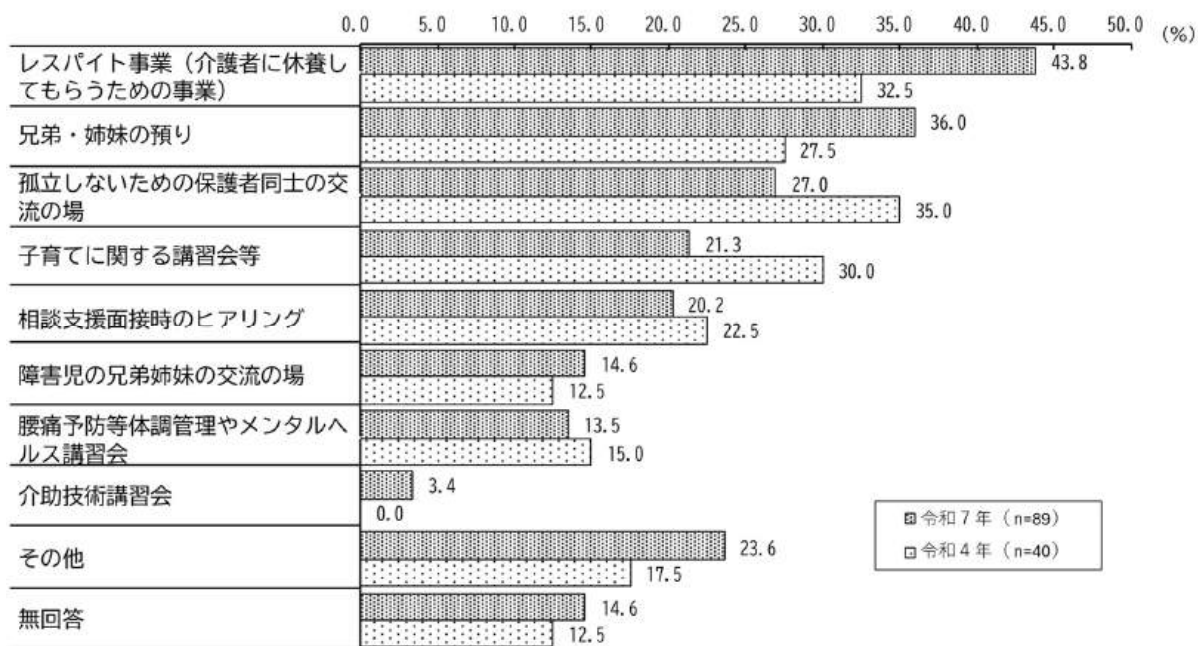


介助者に必要な支援（経年比較）＜障害児＞



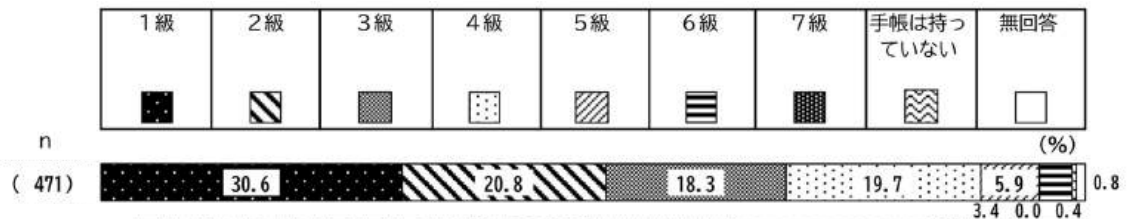
2 障害や疾病の状況について

(1) 身体障害者手帳の級

＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞	
問	あなたの障害や難病の状況についてお聞きします。
(1)	あなたの身体障害者手帳は何級ですか。(1つだけに○)

身体障害者手帳の級について、「1級」が30.6%、「2級」が20.8%となっている。

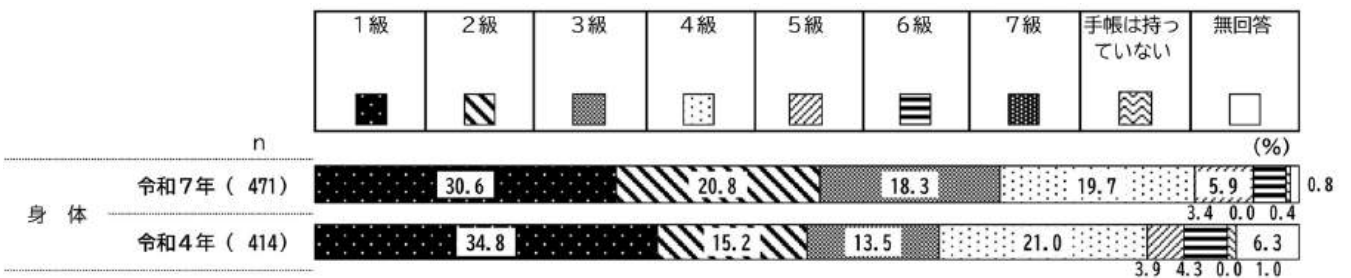
身体障害者手帳の級 <身体>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「2級」が5.6ポイント、「3級」が4.8ポイントそれぞれ増加しており、「1級」が4.2ポイント減少している。

身体障害者手帳の級（経年比較）<身体>

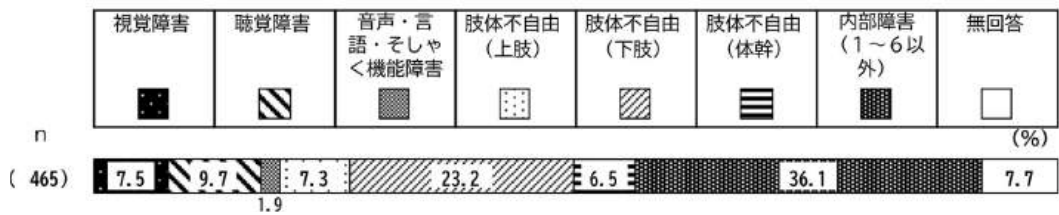


(2) 身体障害者手帳の主な障害

<身体、知的、精神、難病調査の質問>
 (「身体障害者手帳を持っている」と答えた方にお聞きします。)
 (2) 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害は何ですか。(1つだけに○)

身体障害者手帳の主な障害について、「内部障害（1～6以外）」が36.1%で最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」が23.2%などとなっている。

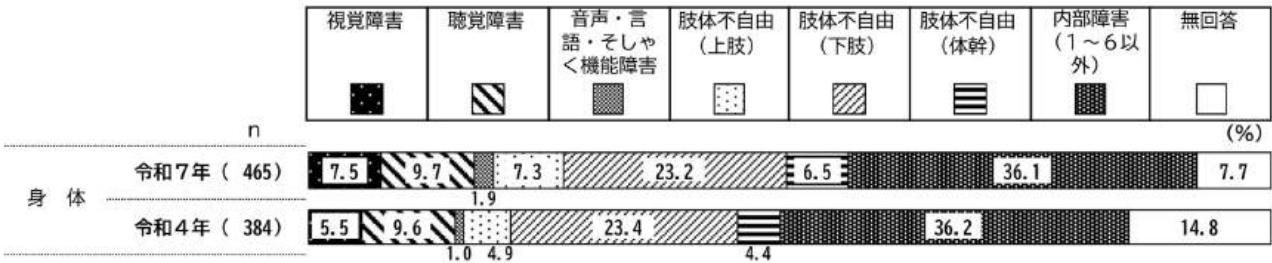
身体障害者手帳の主な障害 <身体>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると大きな傾向の違いはみられないが、「肢体不自由（上肢）」が2.4ポイント増加している。

身体障害者手帳の主な障害（経年比較）<身体>



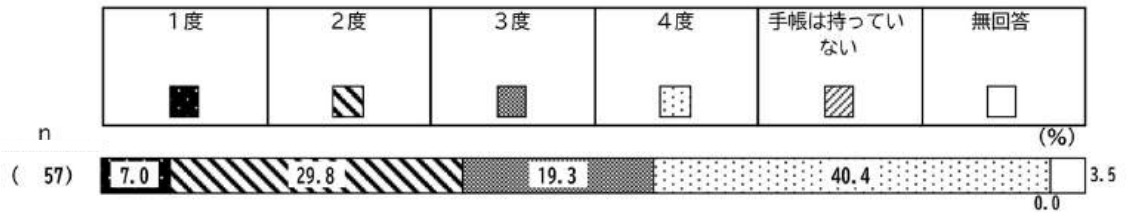
(3) 愛の手帳の度数

＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞

問 あなたの愛の手帳（療育手帳）は何度ですか。（1つだけに○）

愛の手帳の度数について、「4度」が40.4%で最も高く、次いで「2度」が29.8%となっている。

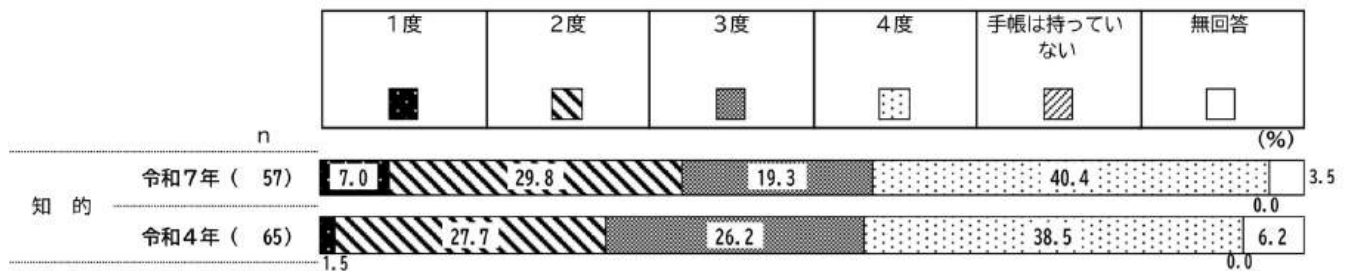
愛の手帳の度数 <知的>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「1度」が5.5ポイント増加し、「3度」が6.9ポイント減少している。

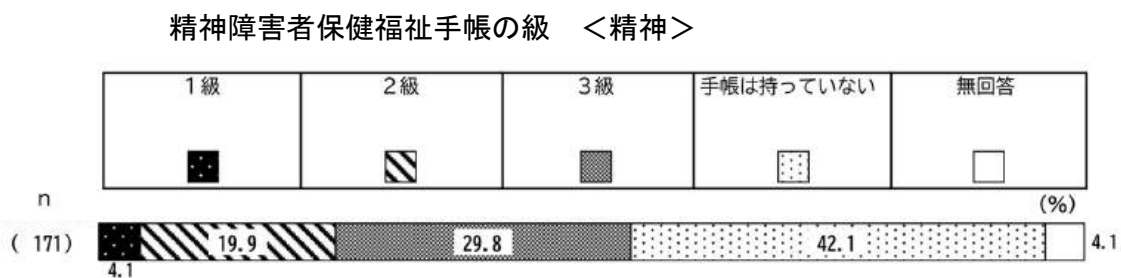
愛の手帳の度数（経年比較）<知的>



(4) 精神障害者保健福祉手帳の級

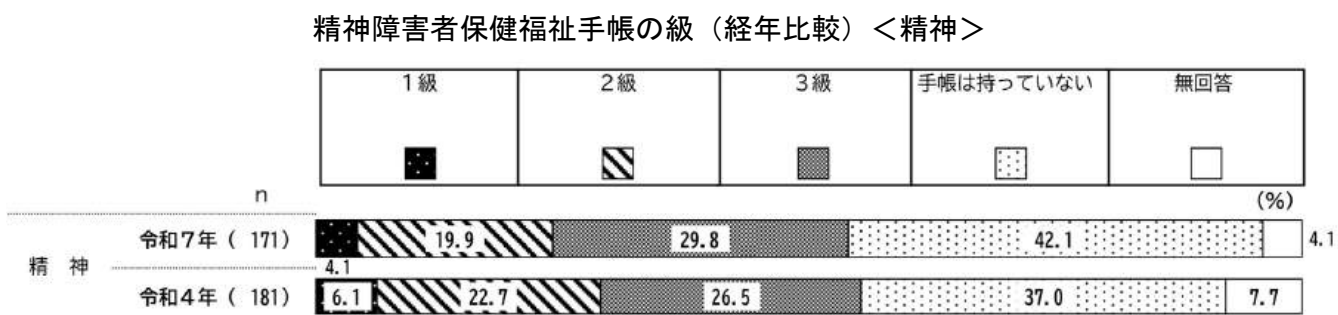
＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞
 問 あなたの精神障害者保健福祉手帳は何級ですか。(1つだけに○)

精神障害者保健福祉手帳の級について、「3級」が29.8%、「2級」が19.9%となっており、「手帳は持っていない」は42.1%となっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「手帳は持っていない」が5.1ポイント、「3級」が3.3ポイントそれぞれ増加し、「2級」が2.8ポイント減少している。

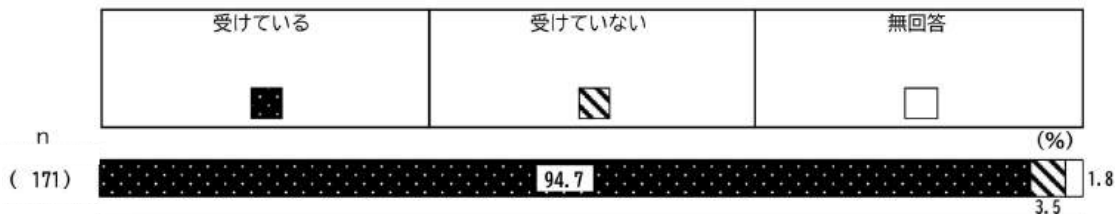


(5) 自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無

＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞
 問 あなたは、自立支援医療（精神通院医療）を受けていますか。（1つだけに○）

自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無について、「受けている」が94.7%、「受けていない」は3.5%となっている。

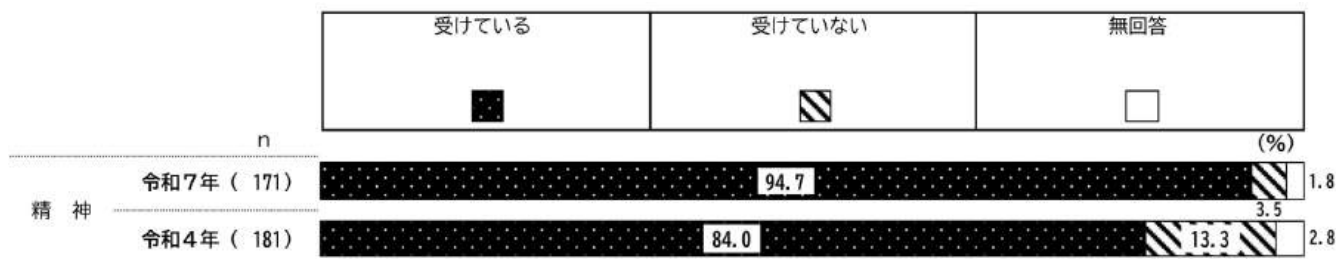
自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無 ＜精神＞



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「受けている」が10.7ポイント増加し、「受けていない」が9.8ポイント減少している。

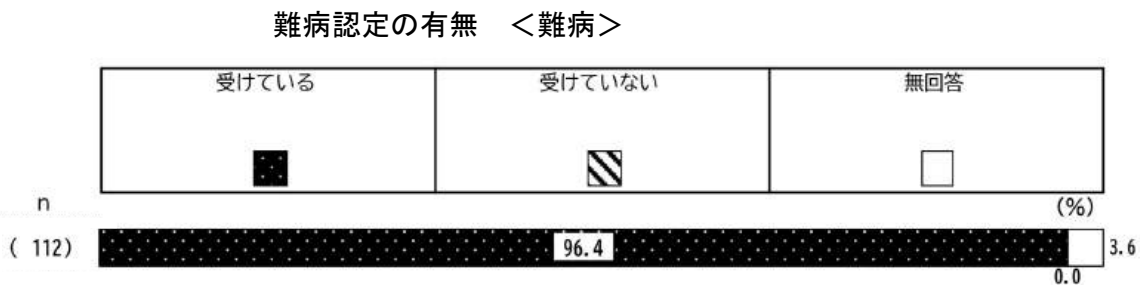
自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無（経年比較）＜精神＞



(6) 難病認定の有無

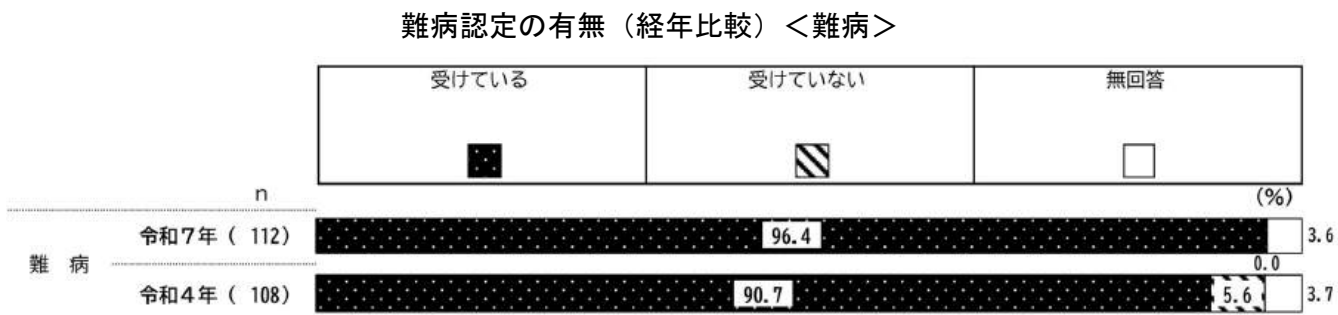
＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞
 問 あなたは、難病（特定疾病）の医療助成を受けていますか。（1つだけに○）

難病認定の有無について、「受けている」が96.4%となっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「受けている」が5.7ポイント増加している。



(7) 発達障害の診断の有無

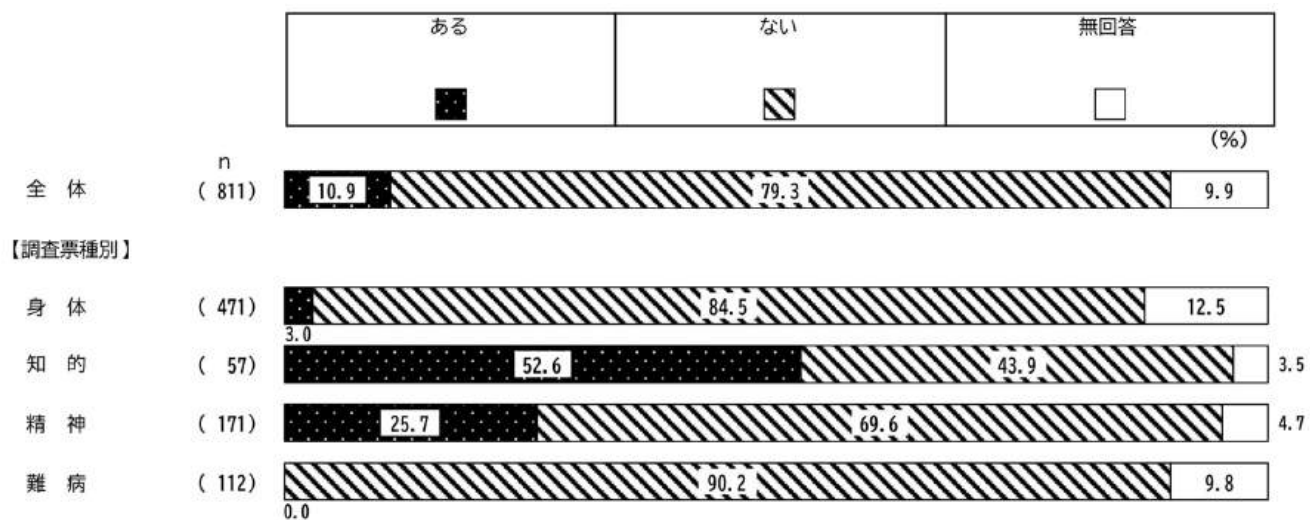
＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞

問 あなたは、発達障害と診断されたことがありますか。(1つだけに○)

発達障害の診断の有無について、全体でみると、「ある」が10.9%、「ない」は79.3%となっている。

調査票種別でみると、知的では「ある」が52.6%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

発達障害の診断の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>

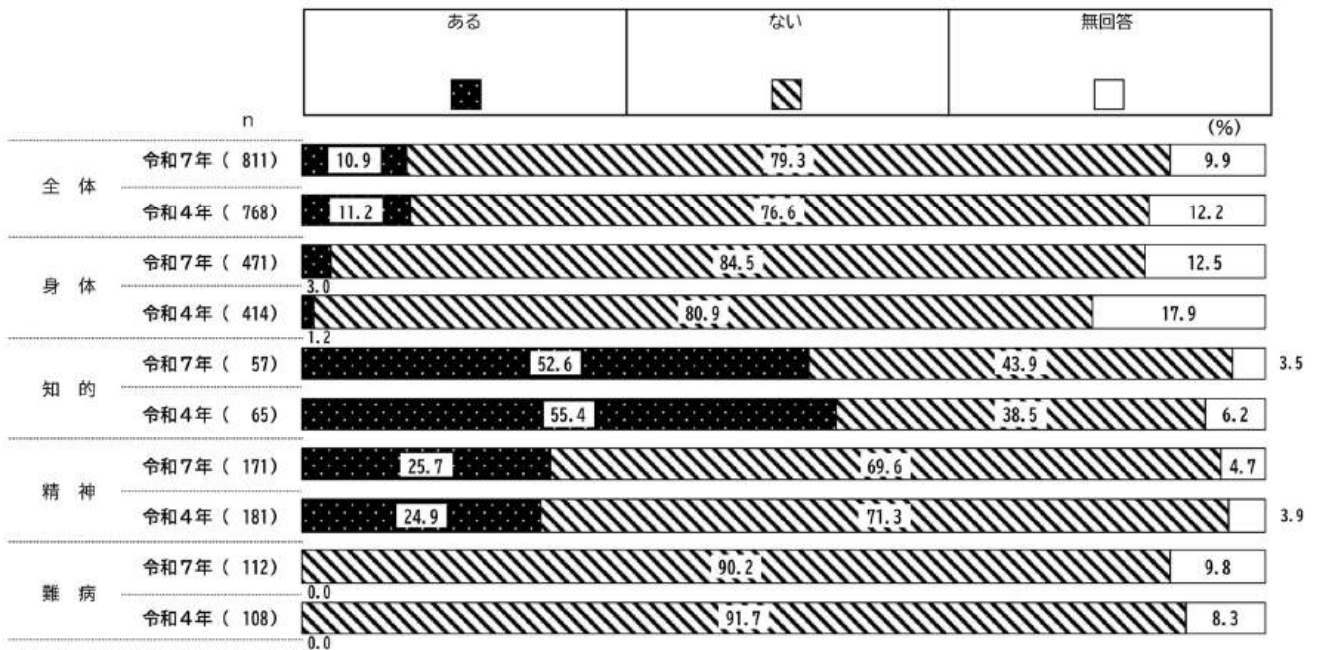


【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「ある」が横ばい、「ない」は2.7ポイント増加している。

調査票種別で見ると、知的で「ない」が5.4ポイント増加し、「ある」が2.8ポイント減少しており、身体では「ある」「ない」ともに令和4年時より増加傾向にある。

発達障害の診断の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(8) 高次脳機能障害の診断の有無

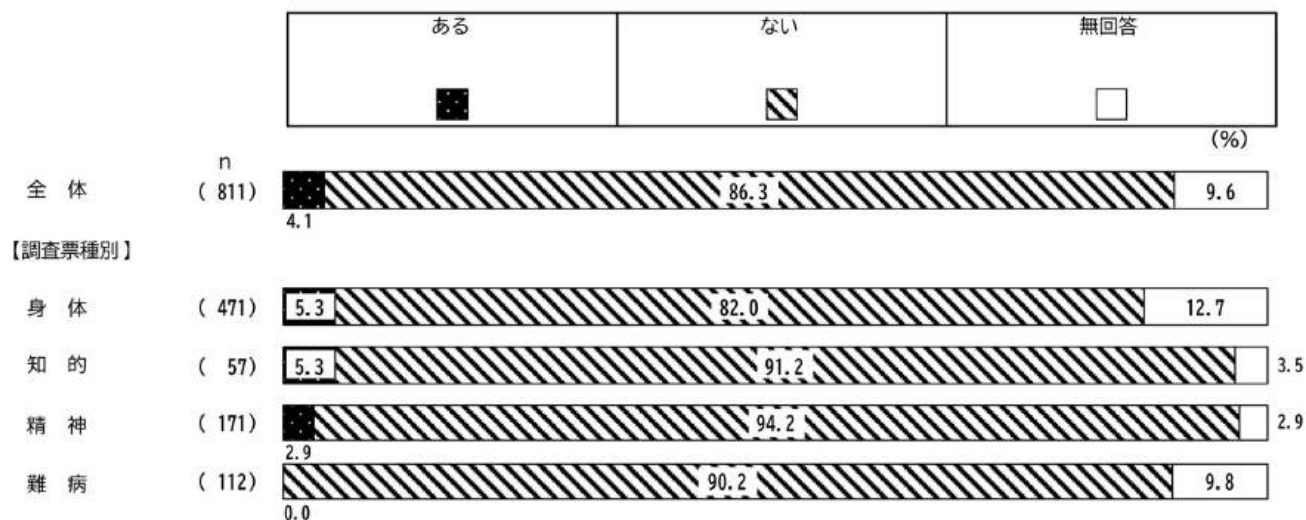
＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞

問 あなたは、高次脳機能障害と診断されたことがありますか。(1つだけに○)

高次脳機能障害の診断の有無について、全体で見ると、「ある」が4.1%、「ない」は86.3%となっている。

調査票種別で見ると、身体と知的で「ある」が5.3%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

高次脳機能障害の診断の有無 <全体(身体、知的、精神、難病)>

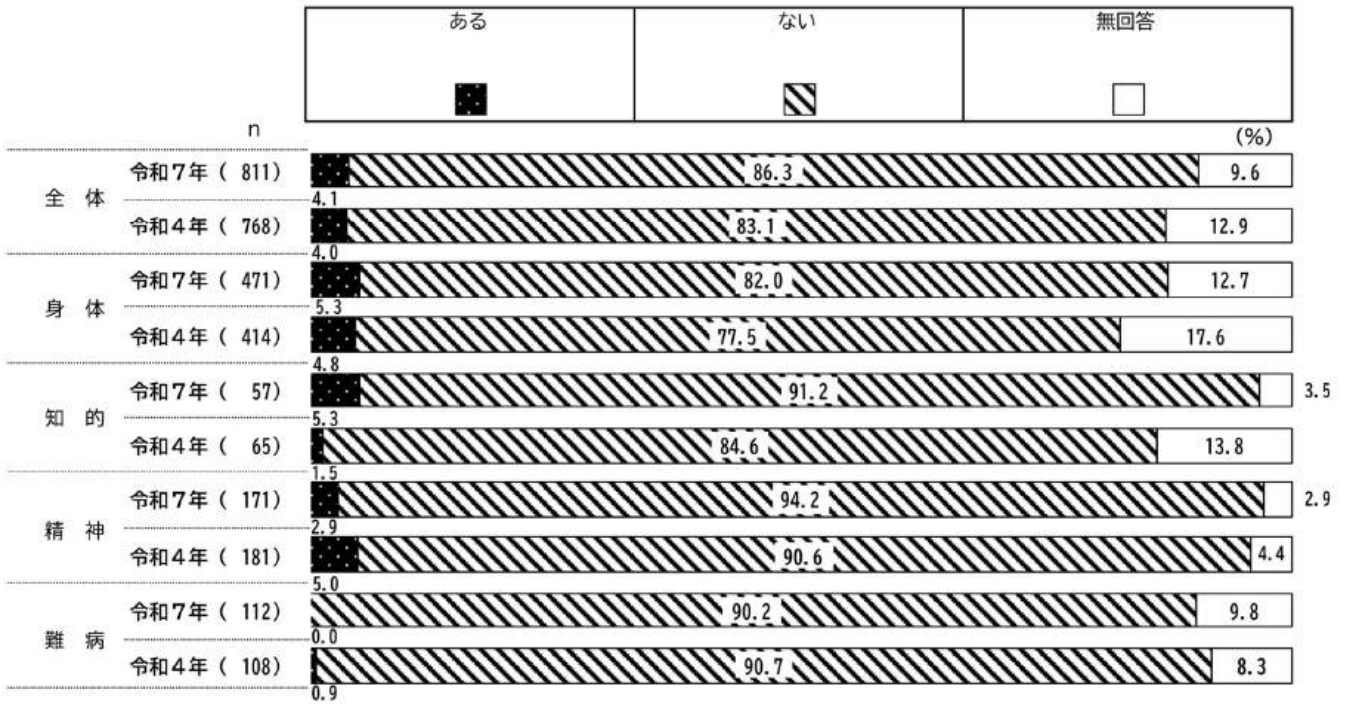


【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「ある」が横ばい、「ない」は3.2ポイント増加している。

調査票種別でみると、「ある」が知的で3.8ポイント増加しており、精神で2.1ポイント減少している。

高次脳機能障害の診断の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(9) 手帳を持たない理由

<障害児調査の質問>

問 障害者手帳を持っていないお子さんについてお聞きします。

お子さんが手帳をお持ちでない理由について、次のうちからあてはまるものをお選びください。(〇は1つだけ)

障害児の手帳を持たない理由をみると、「まだ申請する必要を感じないため」が16.7%で最も高く、次いで「障害があるかはっきりしないため」が15.7%などとなっている。

手帳を持たない理由 <障害児>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「まだ申請する必要を感じないため」が25.9ポイント、「障害があるかはっきりしないため」が14.1ポイントそれぞれ減少している。

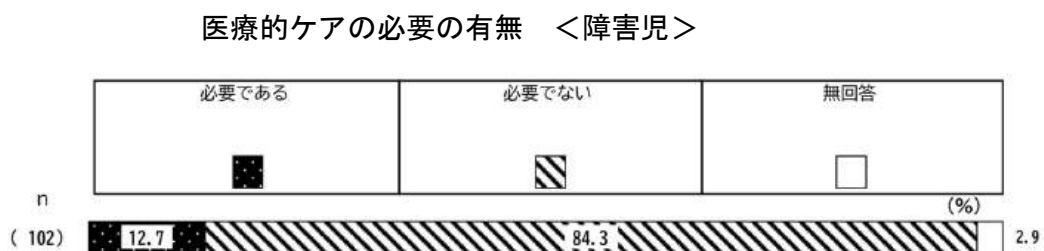
手帳を持たない理由 (経年比較) <障害児>



(10) 医療的ケアの必要の有無

＜障害児調査の質問＞	
問	お子さんの医療的ケアについてお伺いします。 お子さんは、医療的ケアが必要ですか。(○は1つだけ)

障害児の医療的ケアの必要の有無をみると、「必要である」が12.7%、「必要でない」は84.3%となっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「必要である」がほぼ横ばい、「必要でない」が2.9ポイント減少している。



(11) 現在受けている医療的ケア

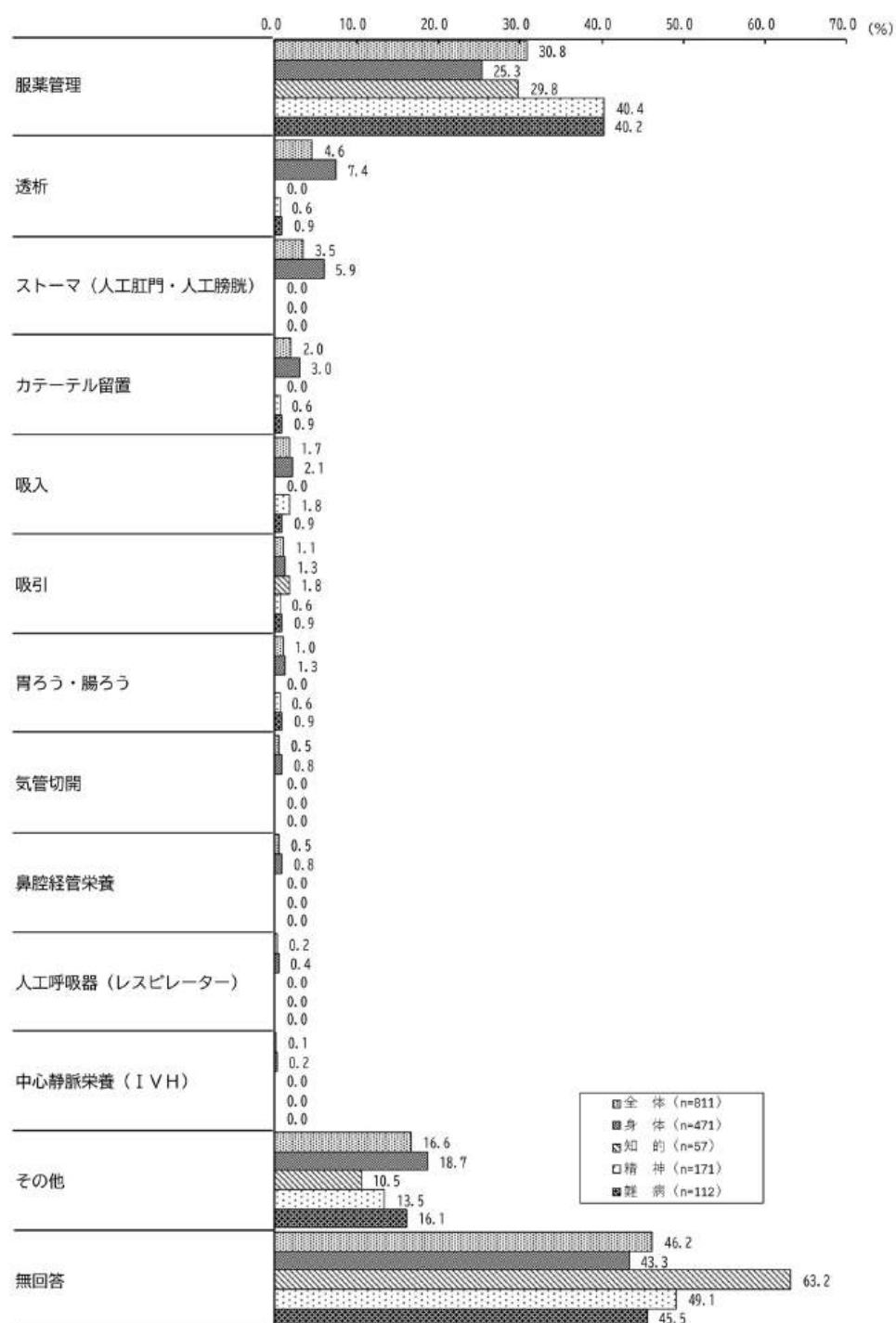
(身体、知的、精神、難病調査では全員に、障害児調査では医療的ケアが「必要である」と答えた方にお聞きします。)

問 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。(〇はいくつでも)

現在受けている医療的ケアについて、全体でみると、「服薬管理」が30.8%で最も高く、次いで「透析」が4.6%、「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」が3.5%などとなっている。

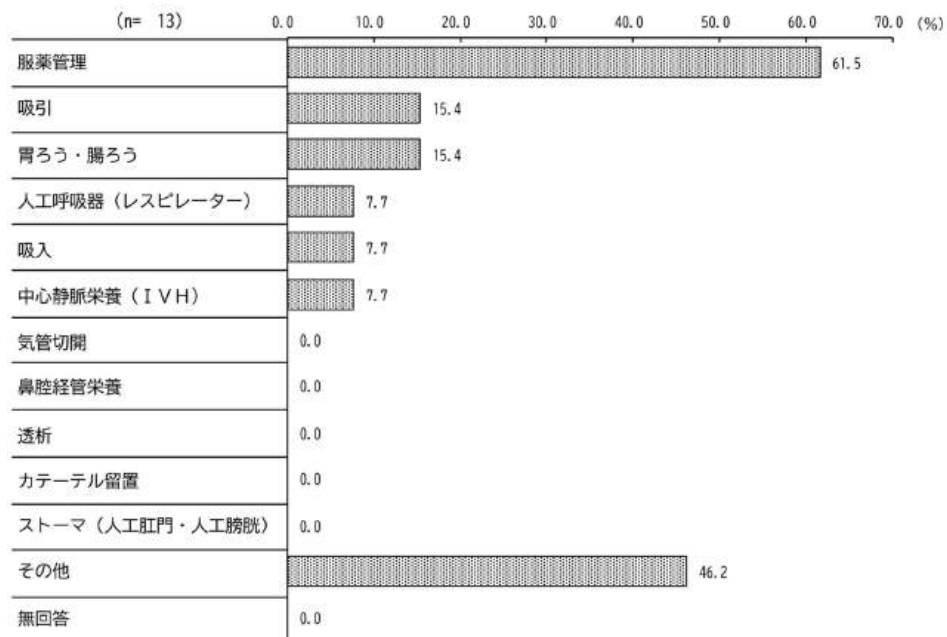
調査票種別でみると、全体・障害児ともに「服薬管理」の割合が最も高くなっている。

現在受けている医療的ケア <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児では「服薬管理」が61.5%で最も高く、次いで「吸引」、「胃ろう・腸ろう」がそれぞれ15.4%などとなっている。

現在受けている医療的ケア <障害児>



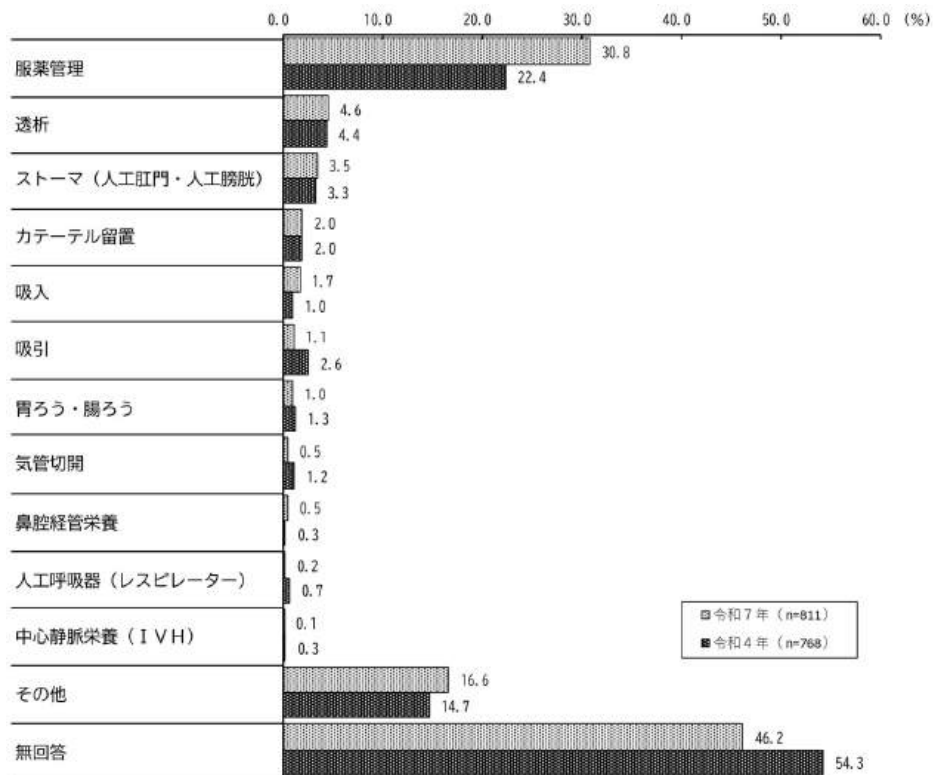
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、前回同様に「服薬管理」、「透析」、「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」の順で高くなっており、傾向の違いはみられない。

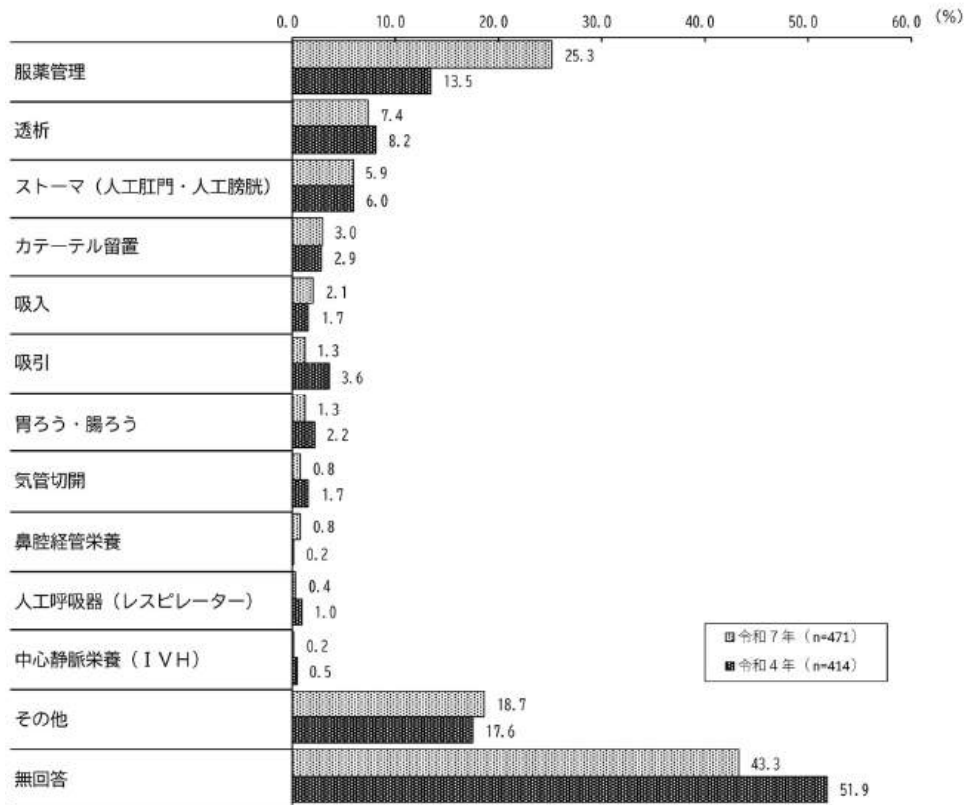
調査票種別でみると、「服薬管理」が身体で11.8ポイント、知的・精神で6.7ポイントそれぞれ増加している。

障害児は「吸引」、「胃ろう・腸ろう」がそれぞれ15.4ポイント増加し、「服薬管理」は38.5ポイント減少している。

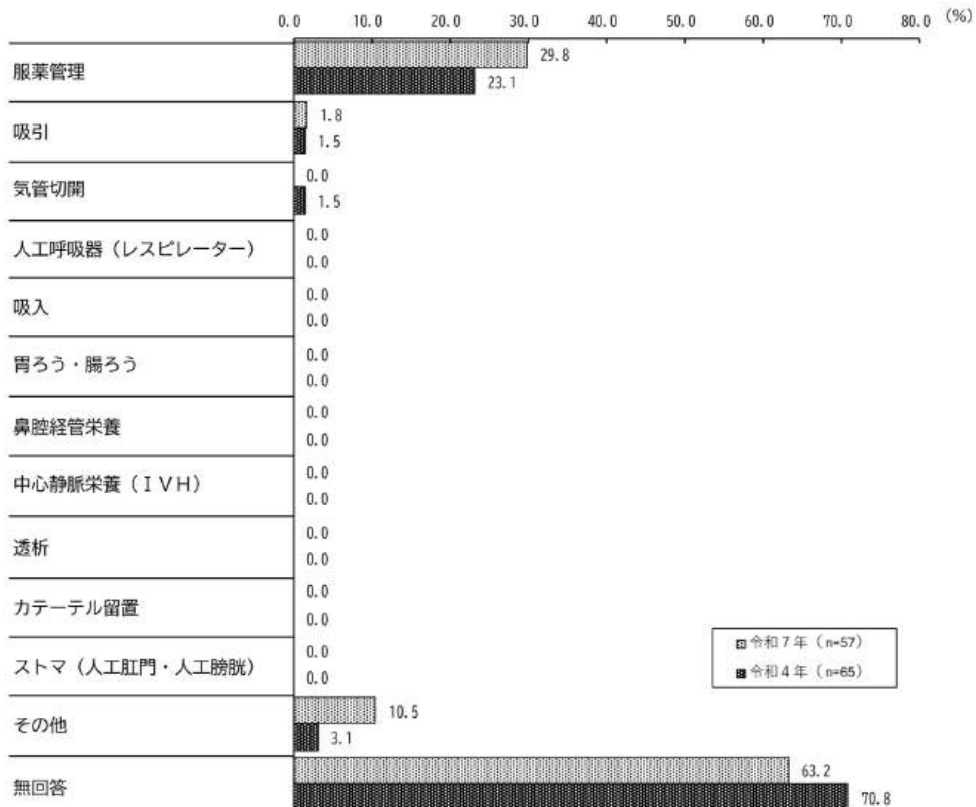
現在受けている医療的ケア（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



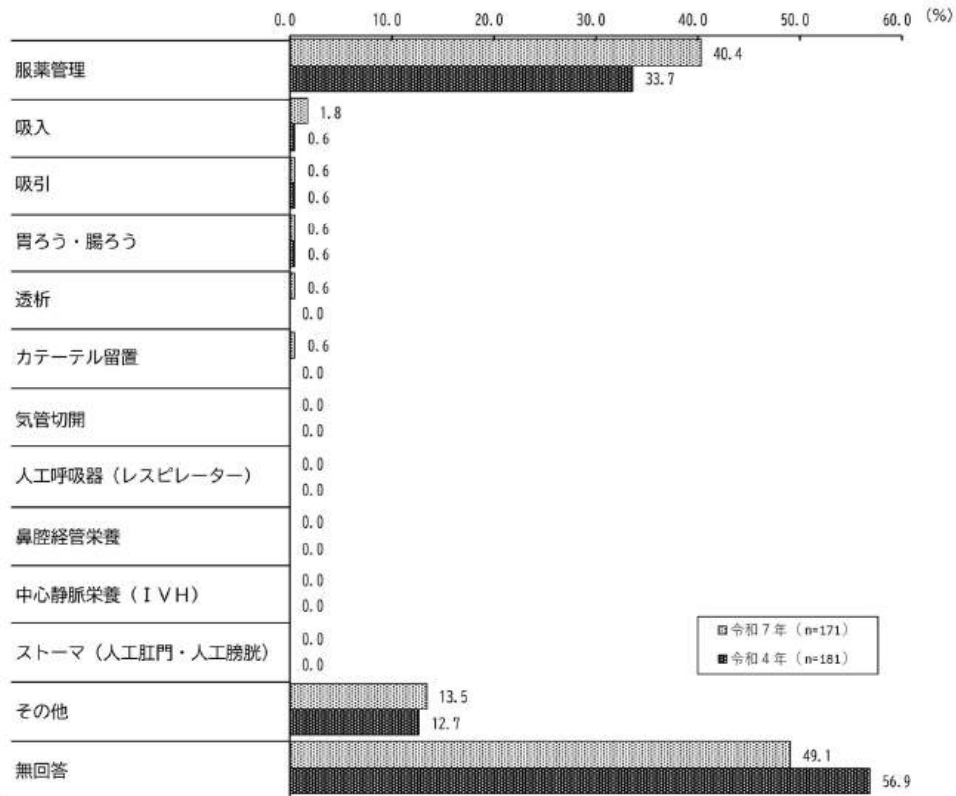
現在受けている医療的ケア（経年比較）＜身体＞



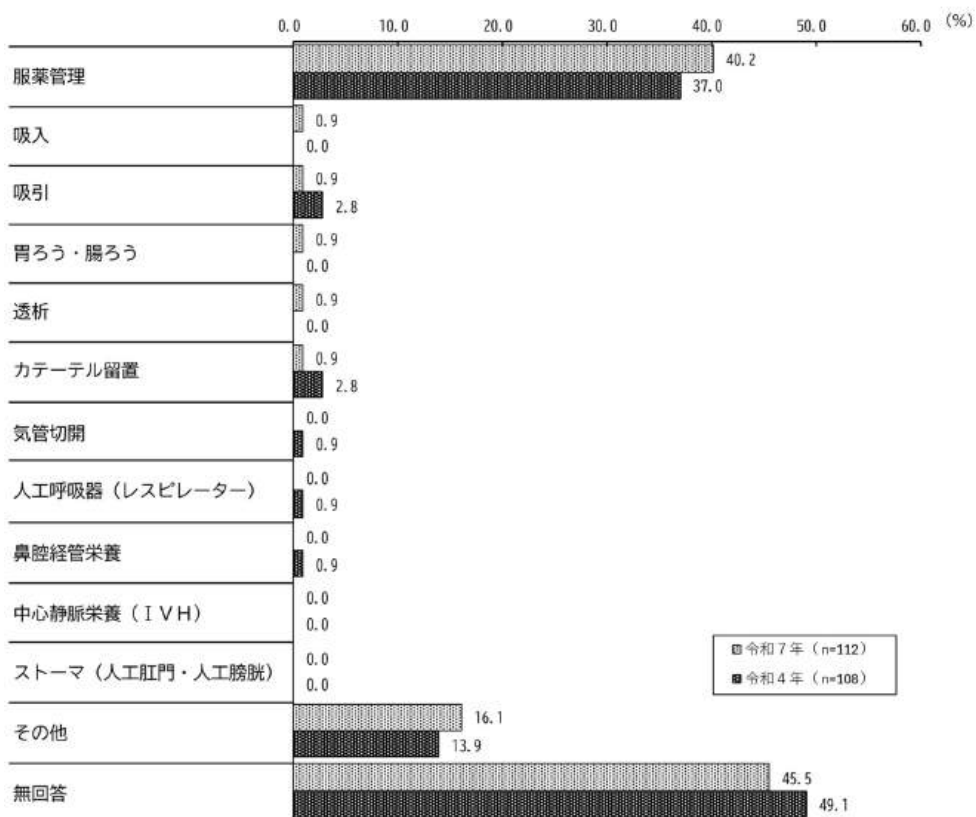
現在受けている医療的ケア（経年比較）＜知的＞



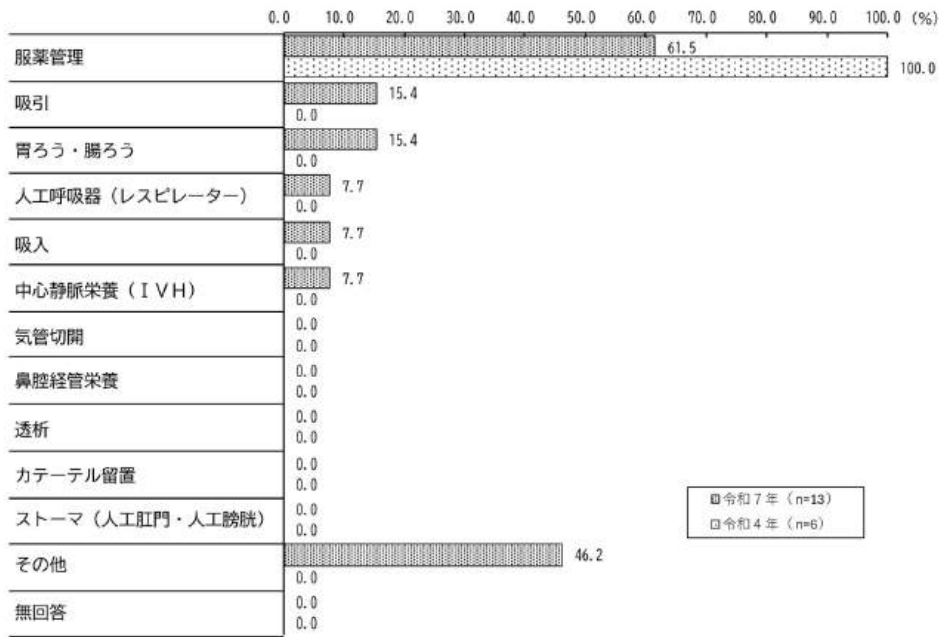
現在受けている医療的ケア（経年比較）＜精神＞



現在受けている医療的ケア（経年比較）＜難病＞



現在受けている医療的ケア（経年比較）＜障害児＞



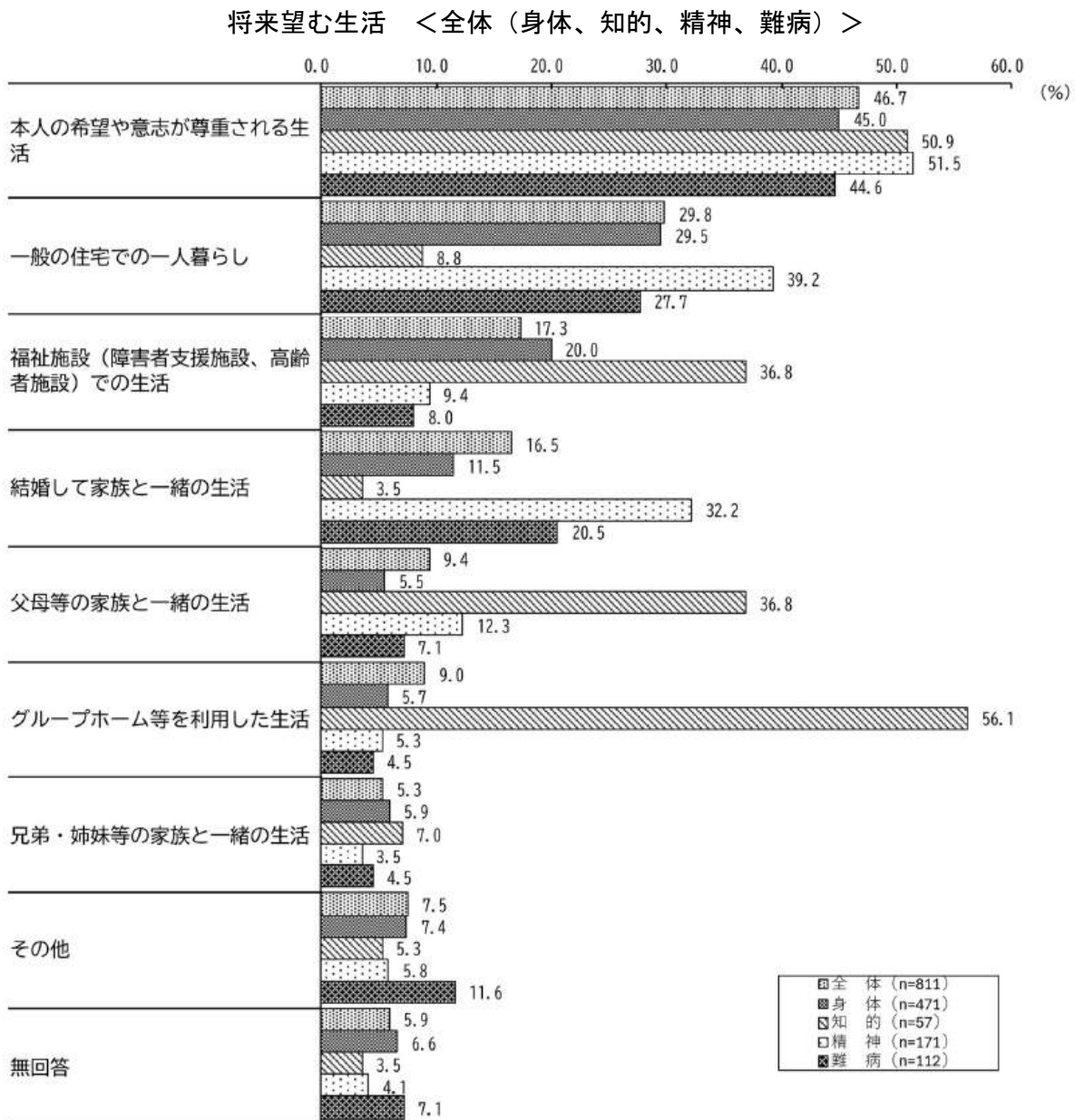
3 住まいや暮らしについて

(1) 将来望む生活

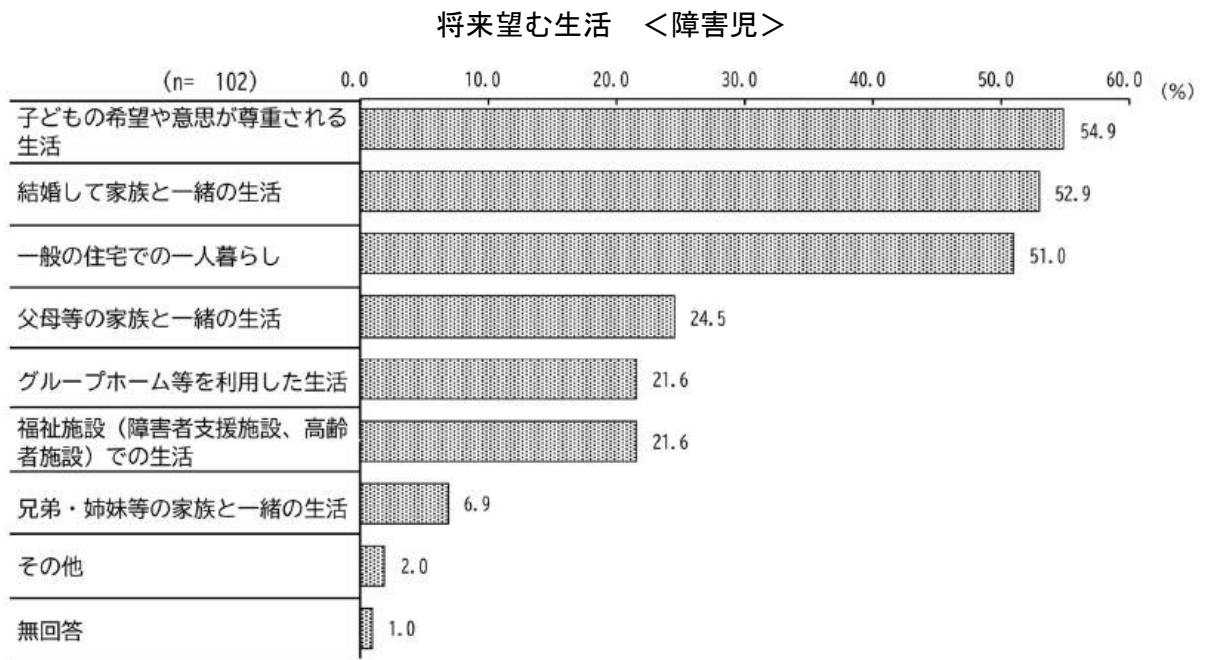
問 あなたは将来、どのような生活を望みますか。(〇はいくつでも)

将来望む生活について、全体でみると、「本人の希望や意思が尊重される生活」が46.7%で最も高く、次いで「一般の住宅での一人暮らし」が29.8%、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者施設）での生活」が17.3%などとなっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「本人の希望や意思が尊重される生活」の割合が最も高くなっている。



障害児の将来望む生活をみると、「子どもの希望や意思が尊重される生活」が54.9%で最も高く、次いで「結婚して家族と一緒に生活」が52.9%などとなっている。



【経年比較】

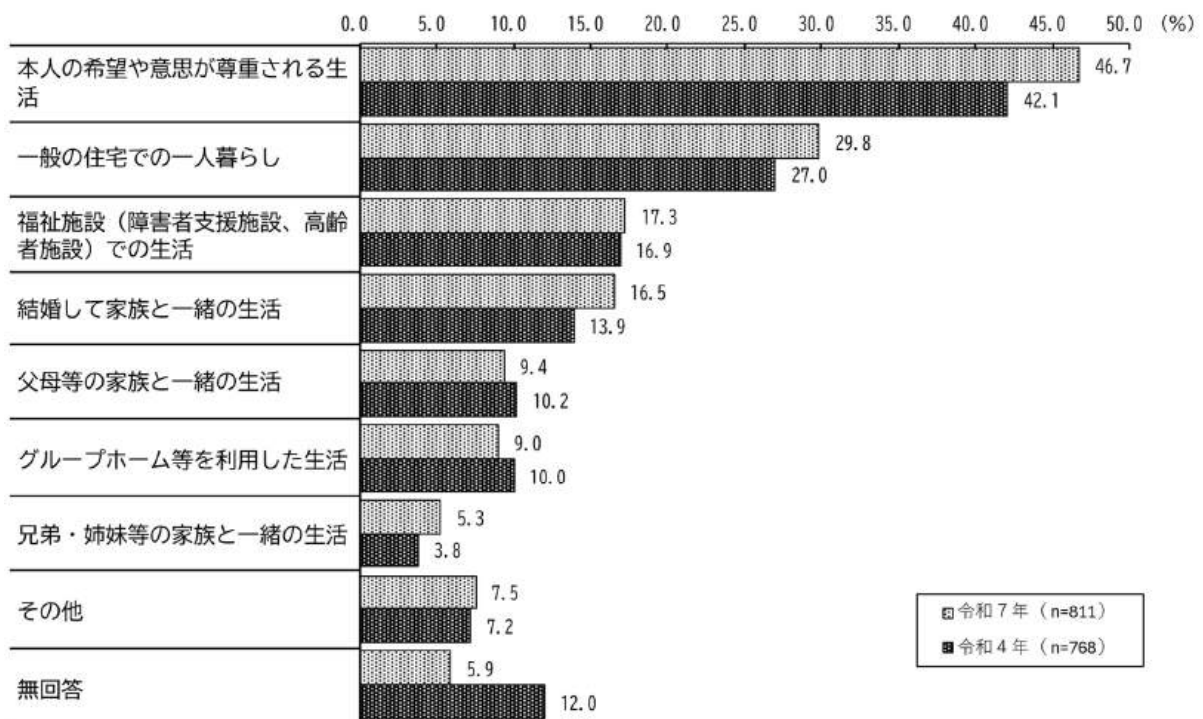
令和4年調査と比較すると、全体では、「本人の希望や意思が尊重される生活」が4.6ポイント増加しているが、大きな傾向の差はみられない。

調査票種別でみると、「本人の希望や意思が尊重される生活」が精神で12.8ポイント、知的で9.4ポイントそれぞれ増加し、「福祉施設（障害者支援施設、高齢者施設）での生活」が知的で6.3ポイント減少している。また、知的では「グループホーム等を利用した生活」が令和4年調査同様、最も高くなっている。

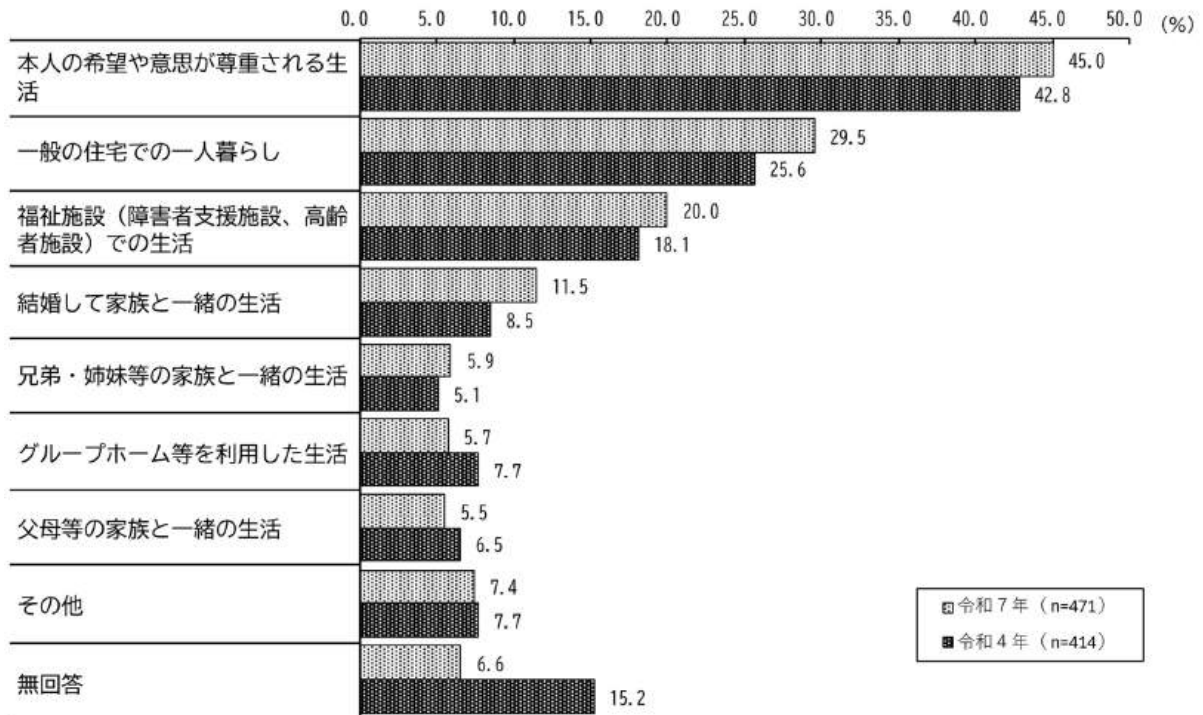
障害児では、「福祉施設（障害者支援施設・高齢者施設）での生活」が15.2ポイント、「グループホーム等を利用した生活」が13.1ポイントそれぞれ増加し、「子どもの希望や意思が尊重される生活」は、23.8ポイント減少している。

令和4年調査と比較して、全体・障害児ともに「本人（子ども）の希望や意思が尊重される生活」の割合が高い一方で、障害児では施設等を利用した生活を望む割合が増加傾向にある。また、知的以外では「一般住宅での一人暮らし」を望む割合が高いものの、知的・障害児では「グループホーム等を利用した生活」が増加傾向にあることから、各々が望む生活を送る事が出来るよう幅広い支援が必要とされる。

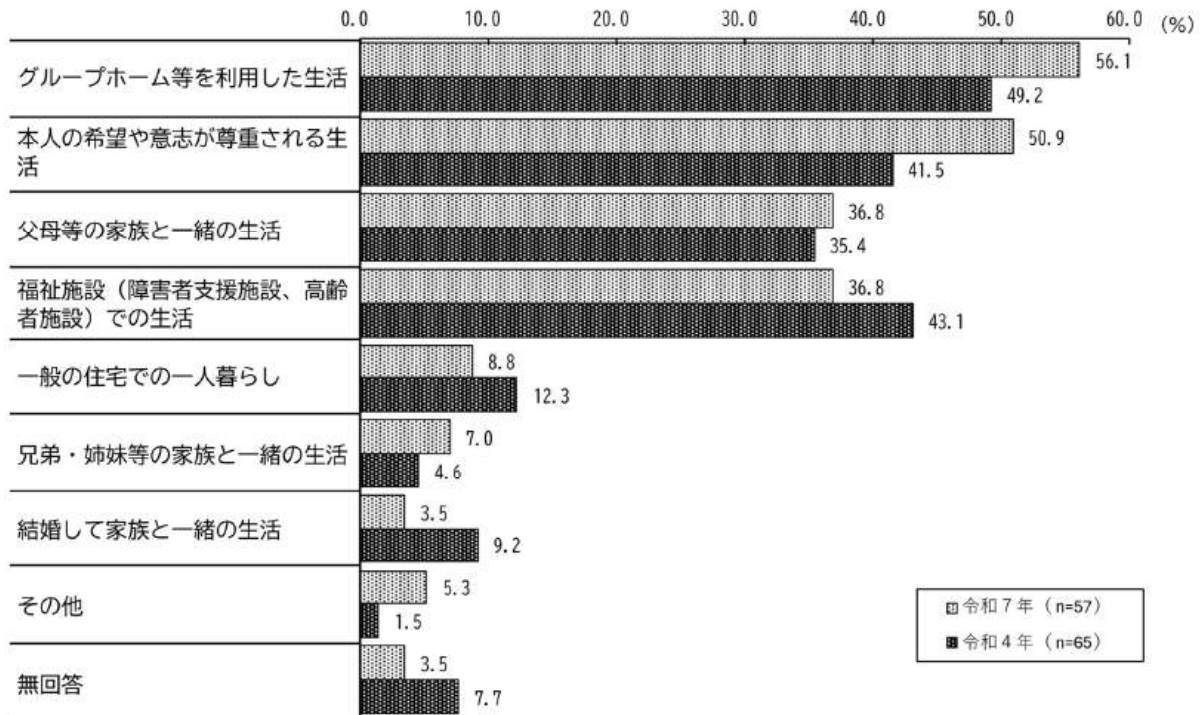
将来望む生活（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



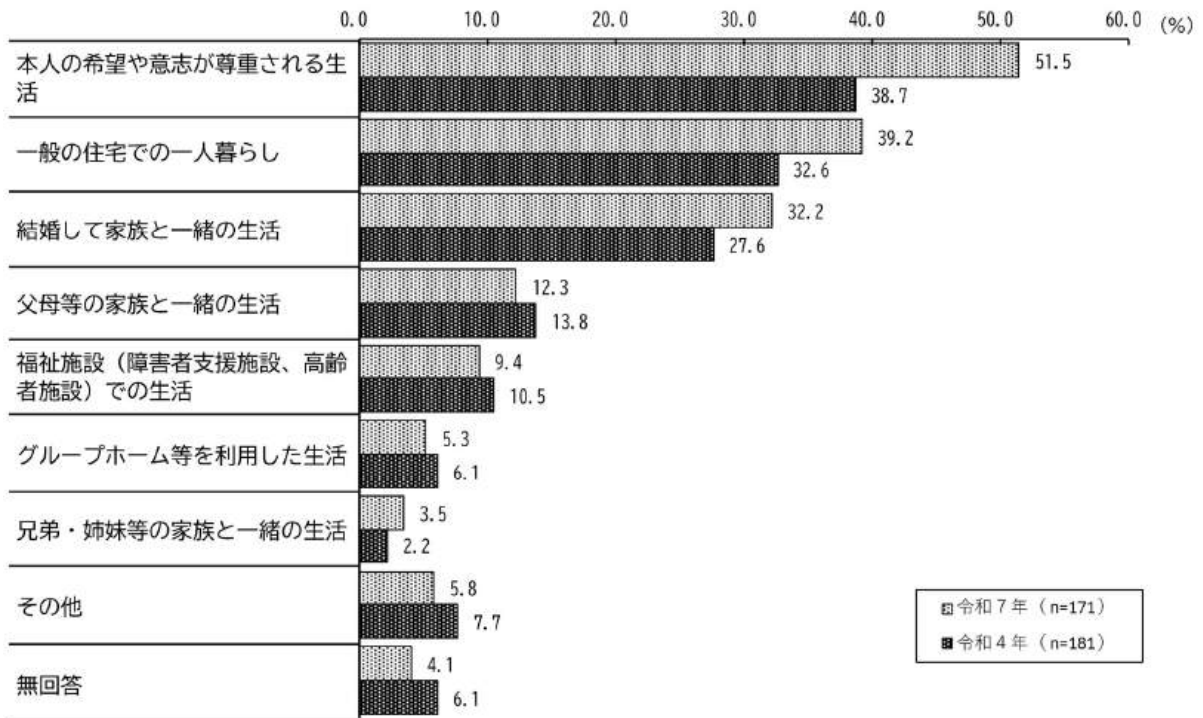
将来望む生活（経年比較）＜身体＞



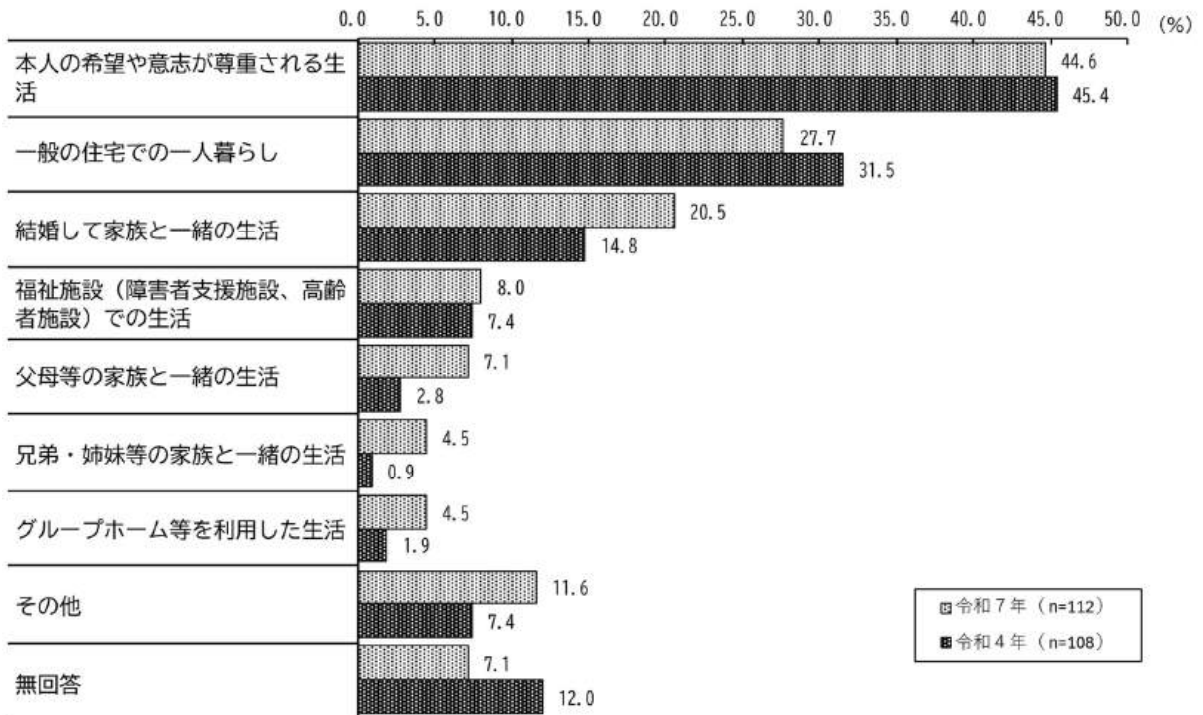
将来望む生活（経年比較）＜知的＞



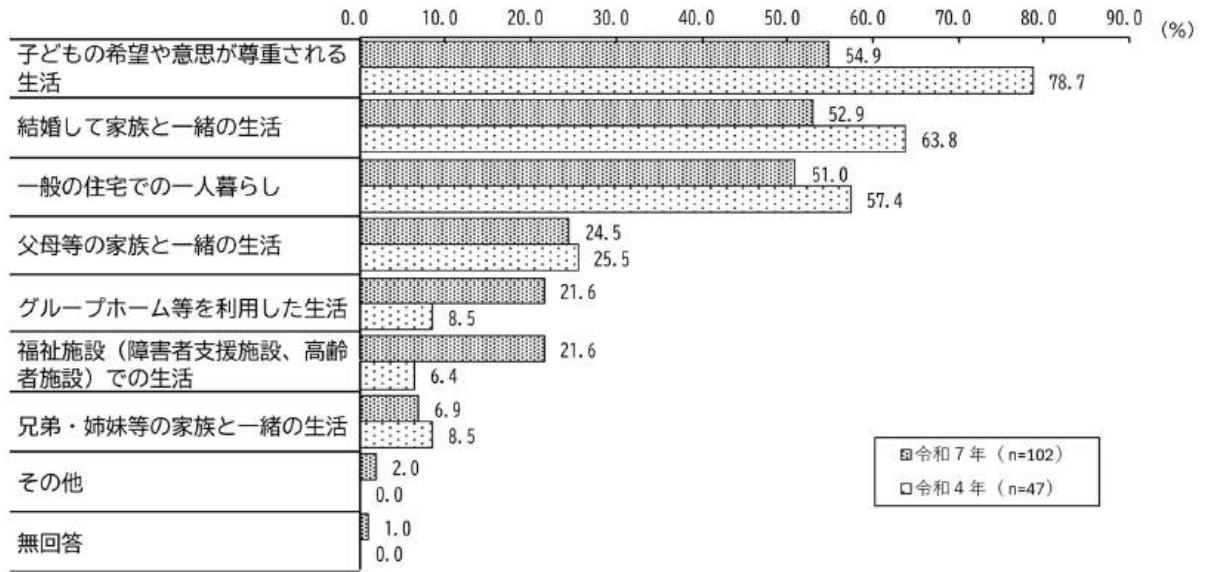
将来望む生活（経年比較）＜精神＞



将来望む生活（経年比較）＜難病＞



将来望む生活（経年比較）＜障害児＞



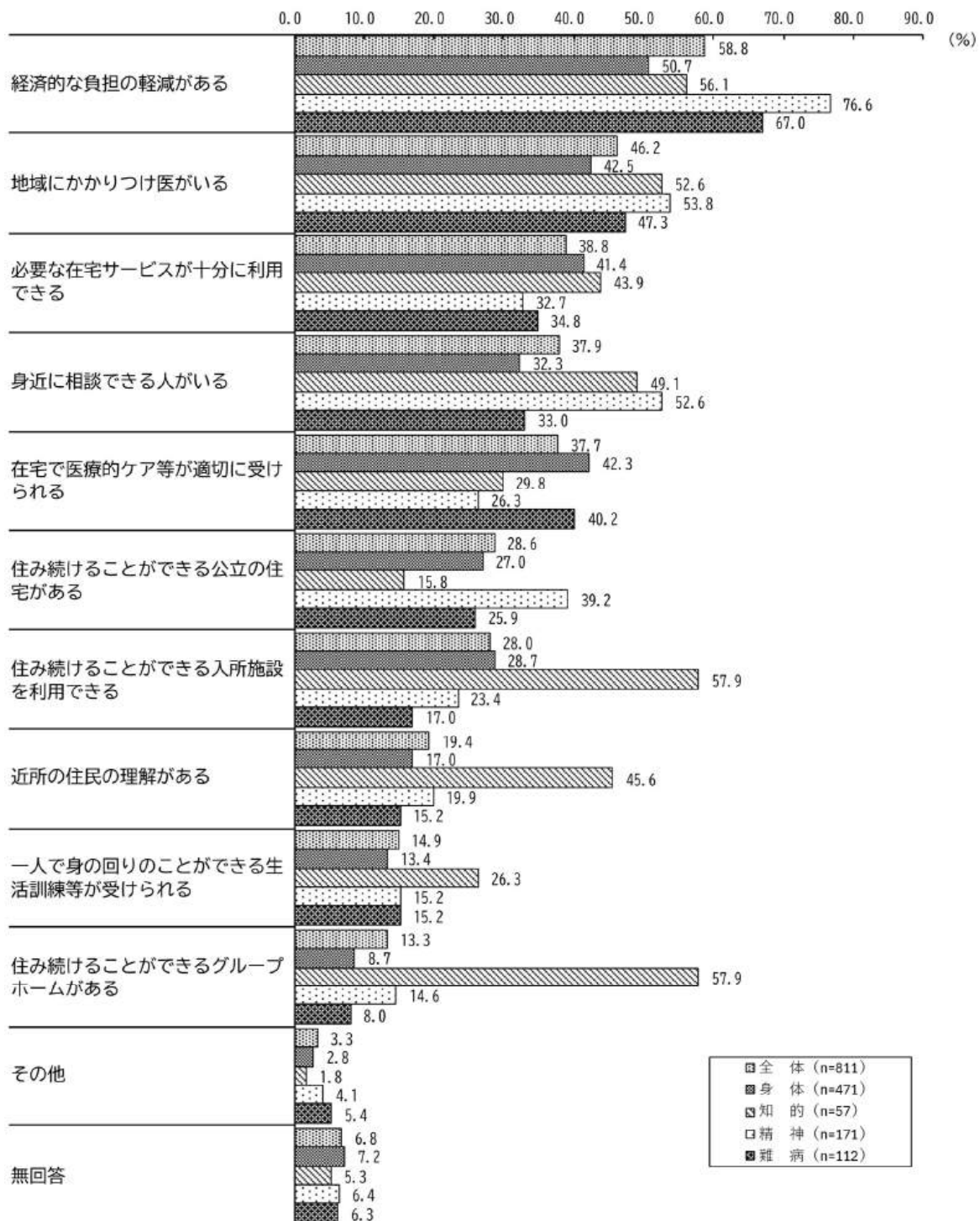
(2) 地域で生活するために必要な支援

問 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(〇はいくつでも)

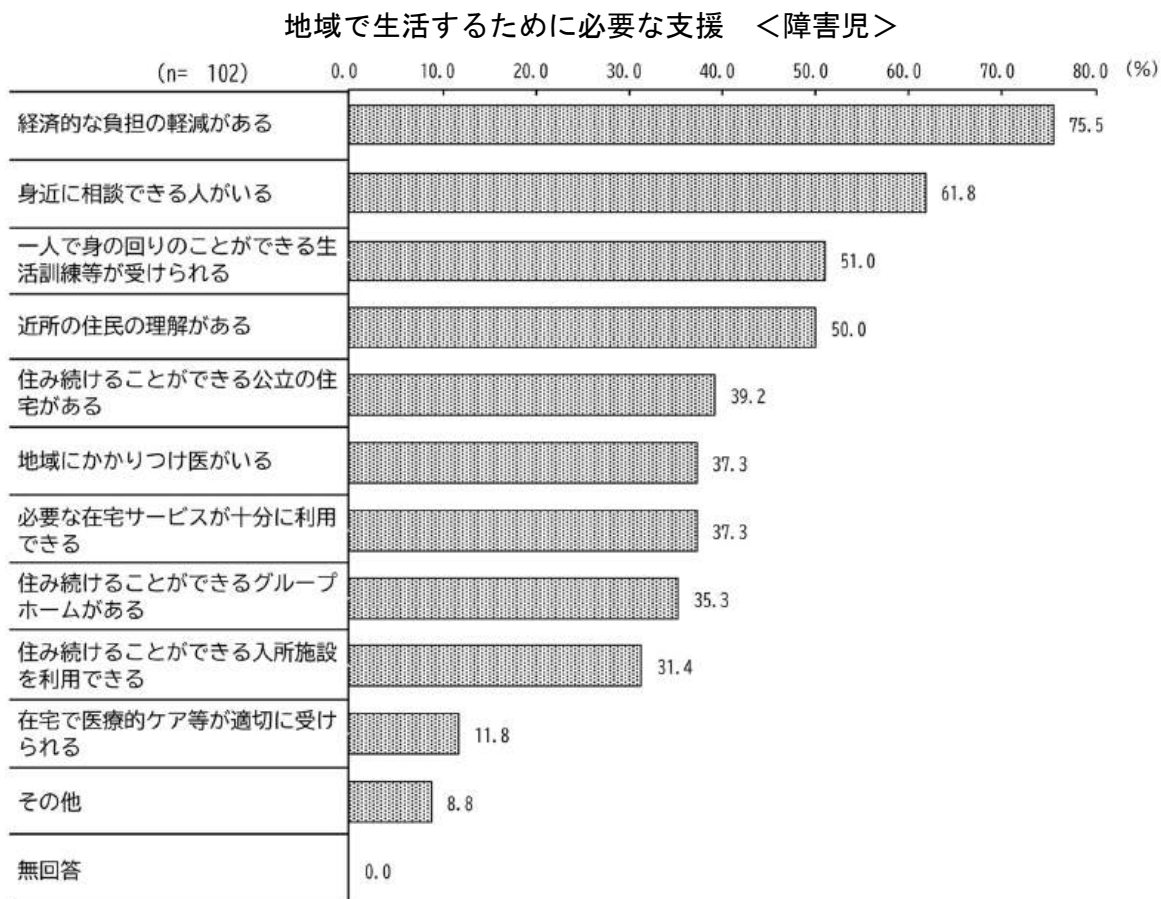
地域で生活するために必要な支援について、全体でみると、「経済的な負担の軽減がある」が58.8%で最も高く、次いで「地域にかかりつけ医がいる」が46.2%、「必要な在宅サービスが十分に利用できる」が38.8%などとなっている。

調査票種別でみると、身体、精神、難病では「経済的な負担の軽減がある」、知的では「住み続けることができる入所施設を利用できる」の割合が最も高くなっている。

地域で生活するために必要な支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の地域で生活するために必要な支援をみると、「経済的な負担の軽減がある」が75.5%で最も高く、次いで「身近に相談できる人がいる」が61.8%、「一人で身の回りのことができる生活訓練等が受けられる」が51.0%などとなっている。



【経年比較】

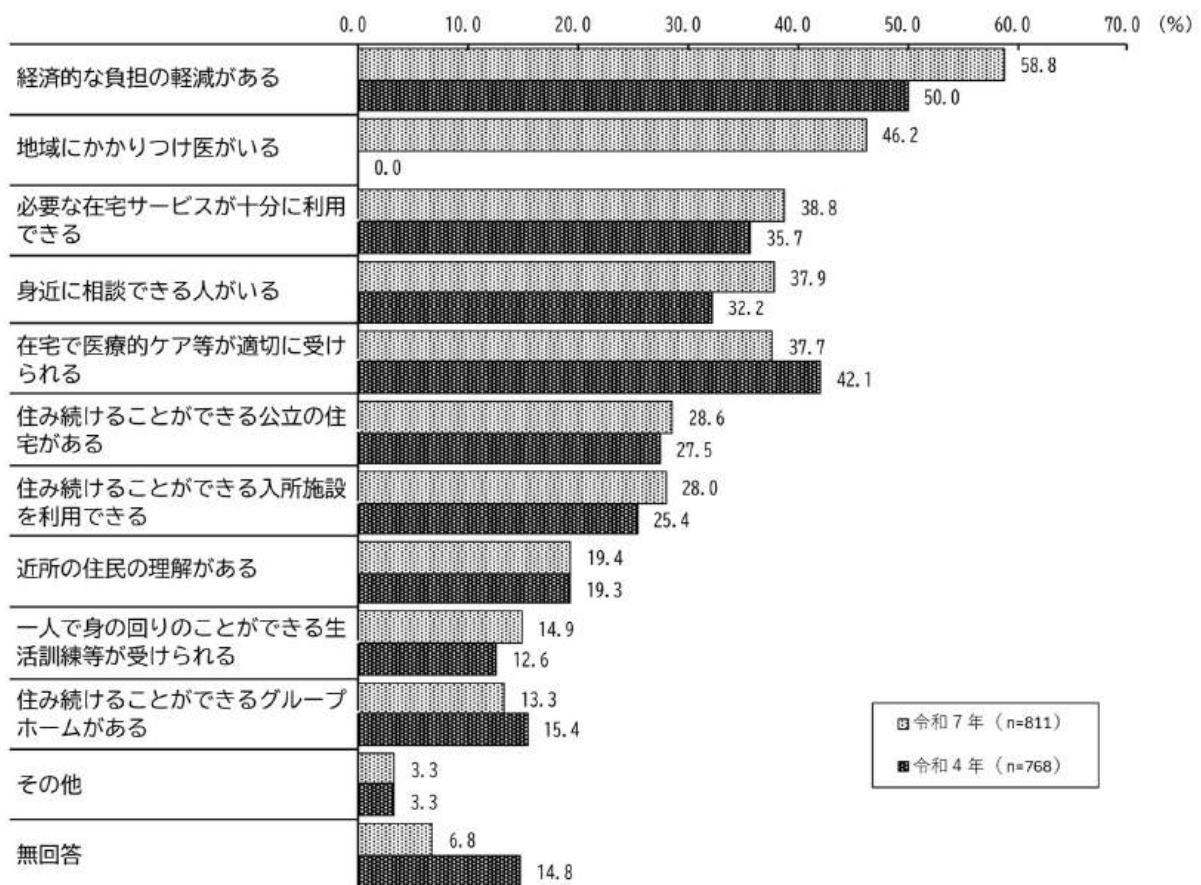
令和4年調査と比較すると、今年度から追加された「地域にかかりつけ医がいる」が46.2ポイントとなる一方、「在宅で医療的ケア等が適切に受けられる」が4.4ポイント減少している。理由としては、前は「在宅で医療的ケア等が適切に受けられる」に「地域にかかりつけ医がいる」が含まれていたためと考えられる。

調査票種別でみると、知的以外では「身近に相談できる人がいる」が増加しており、特に難病では11.7ポイント増加している。

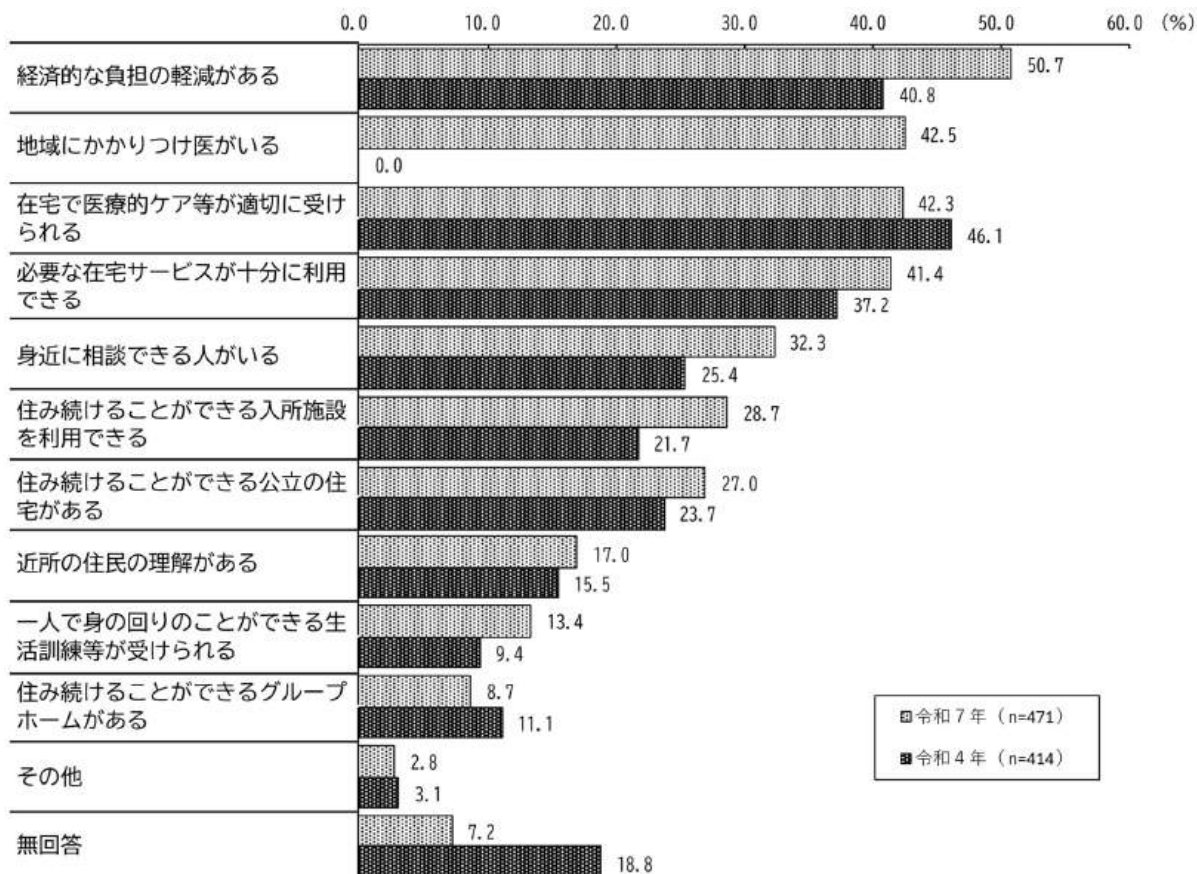
障害児では、「住み続けることができるグループホームがある」が18.3ポイント、「住み続けることができる入所施設を利用できる」が12.3ポイント増加しており、「身近に相談できる人がいる」が16.9ポイント減少している。

全体・障害児ともに、令和4年度調査から引き続き「経済的な負担の軽減がある」は高い傾向にあり、特に難病では17.0ポイント増加していることから、継続的な経済支援を必要・期待していることがうかがえる。また全体では、「地域にかかりつけ医がいる」・「必要な在宅サービスが十分に利用できる」・「身近に相談できる人がいる」が上位にあることから、不調を感じた時にいつでも相談・受診ができ、安心して暮らせる生活環境の整備が求められる。

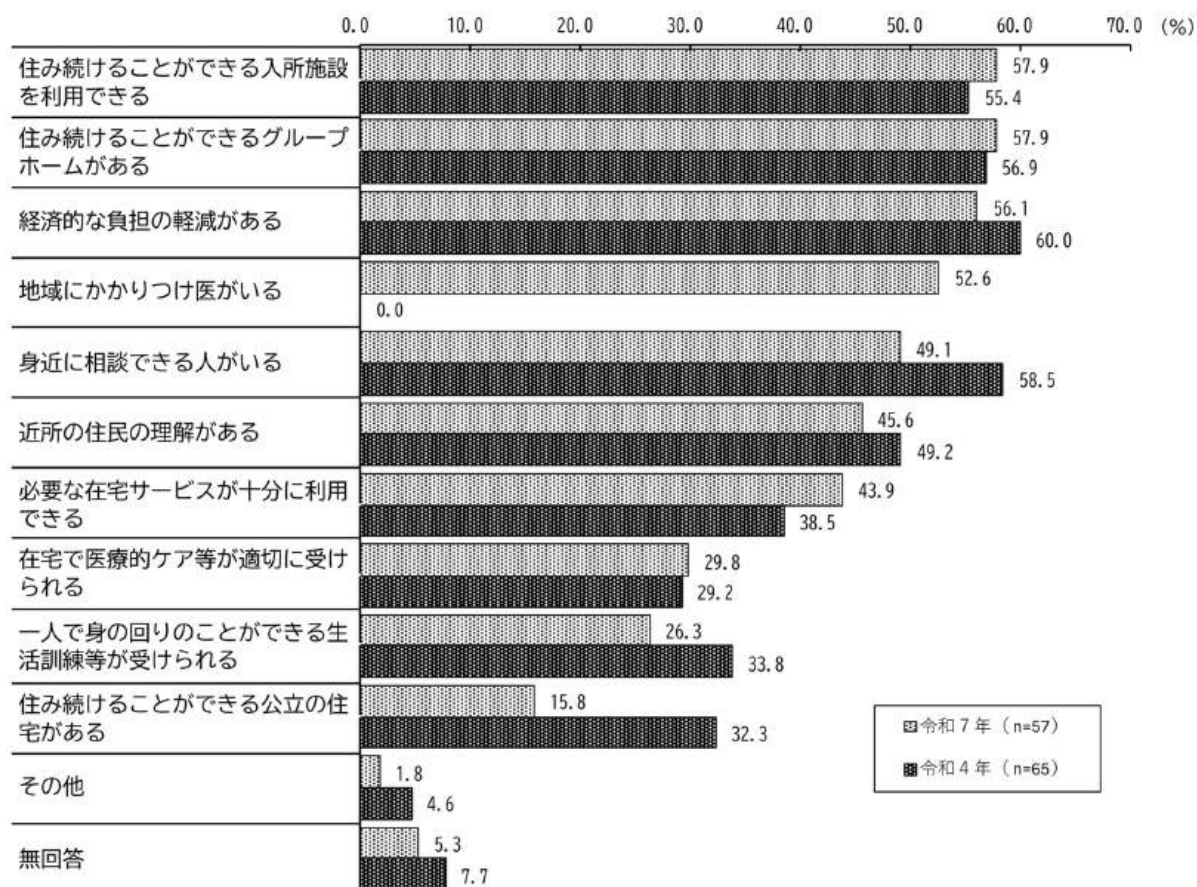
地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



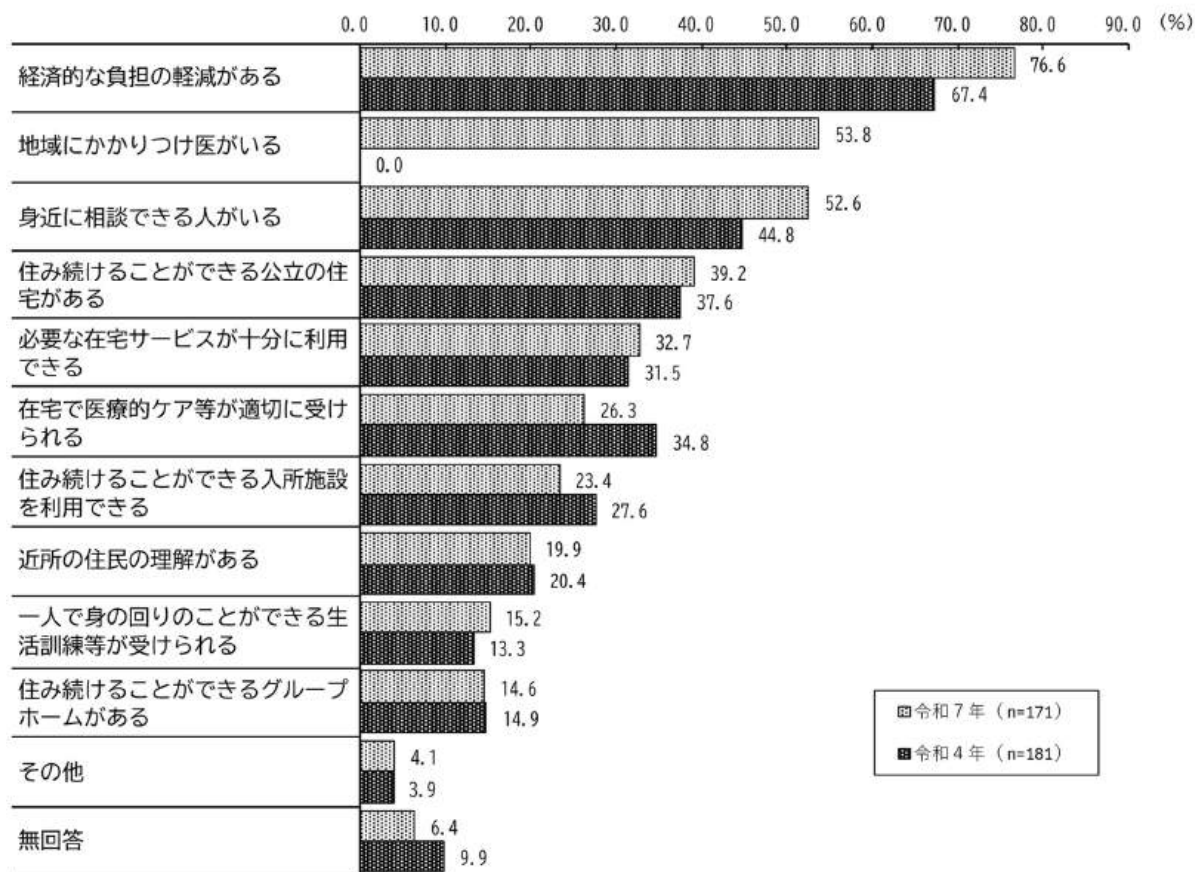
地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜身体＞



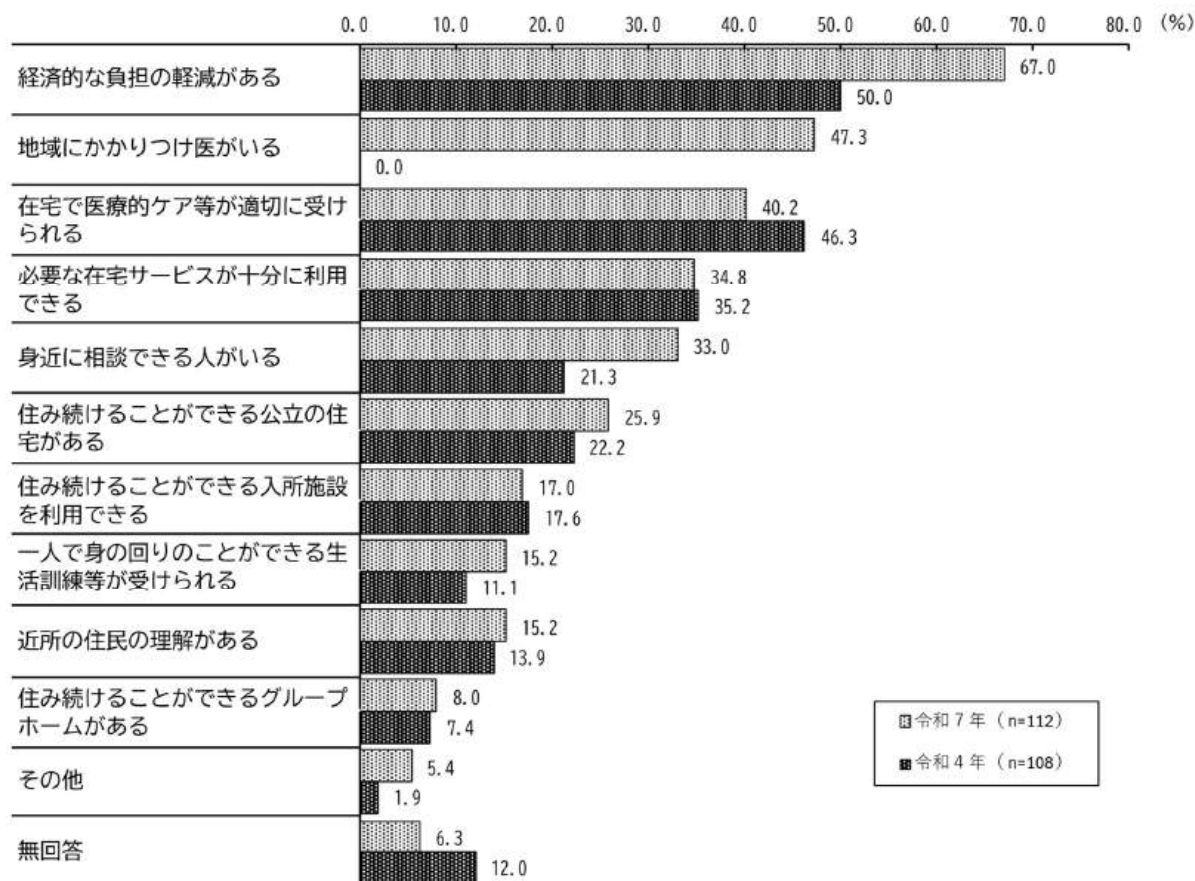
地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜知的＞



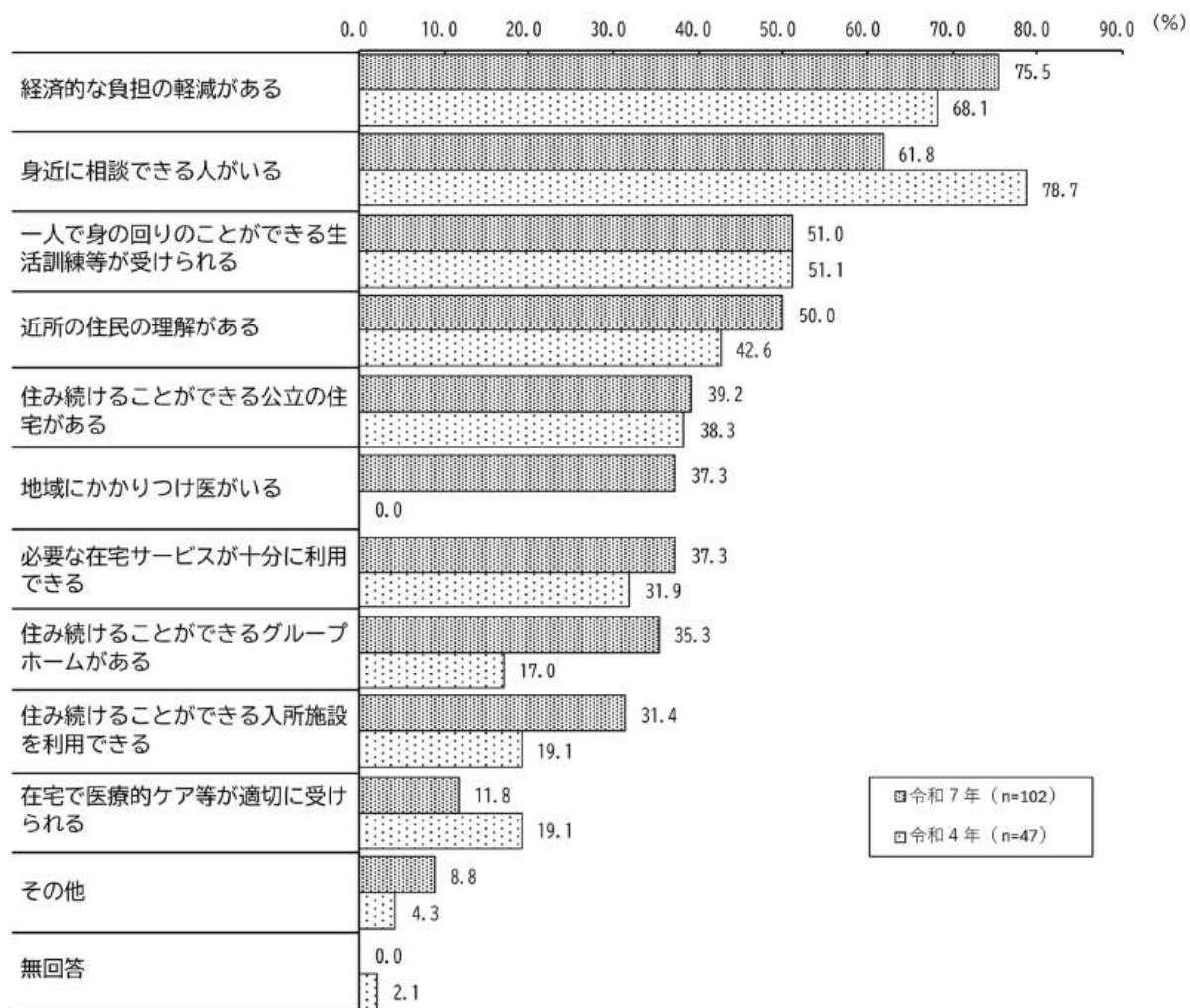
地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜精神＞



地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜難病＞



地域で生活するために必要な支援（経年比較）＜障害児＞



4 日中の活動、スポーツやレクリエーションについて

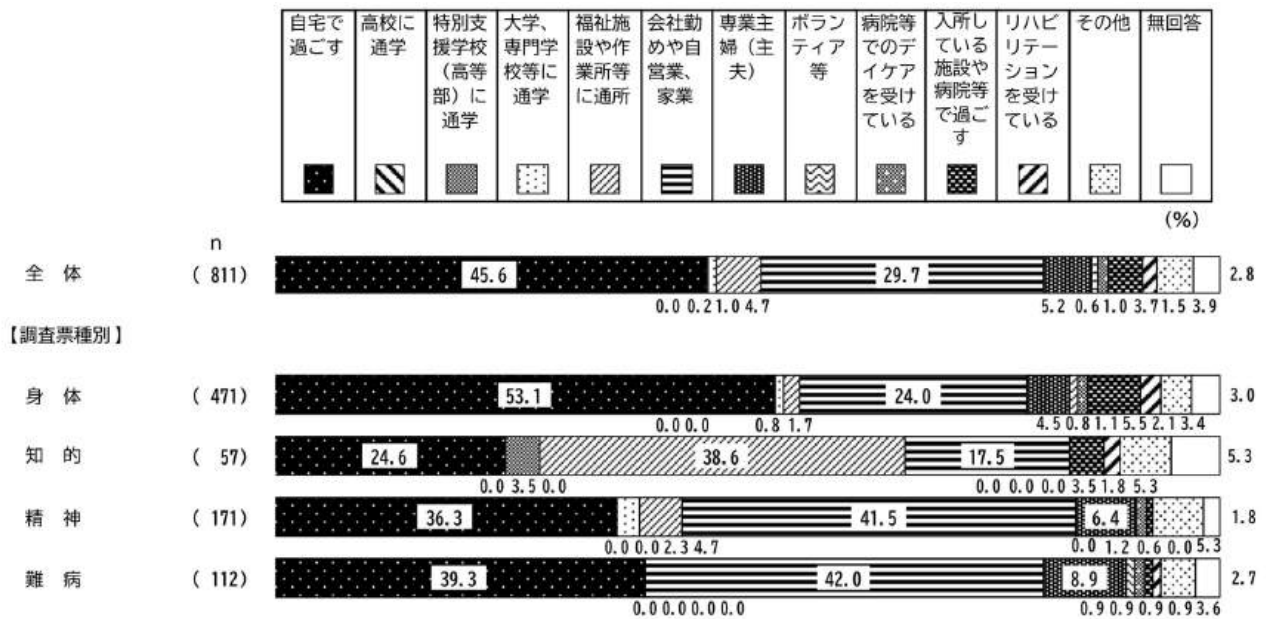
(1) 平日の日中の過ごし方

問 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(1つだけに○)

平日の日中の過ごし方について、全体でみると、「自宅で過ごす」が45.6%で最も高く、次いで「会社勤めや自営業、家業」が29.7%、「専業主婦（主夫）」が5.2%などとなっている。

調査票種別でみると、身体では「自宅で過ごす」、知的では「福祉施設や作業所等に通所」、精神、難病では「会社勤めや自営業、家業」の割合が最も高くなっている。

平日の日中の過ごし方 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の平日の日中の過ごし方をみると、「小・中・高校（通常学級）に通学」が36.3%で最も高く、次いで「幼稚園、保育所、障害児通園施設へ通所」が28.4%、「小・中学校（特別支援学級）に通学」が19.6%などとなっている。

平日の日中の過ごし方 <障害児>



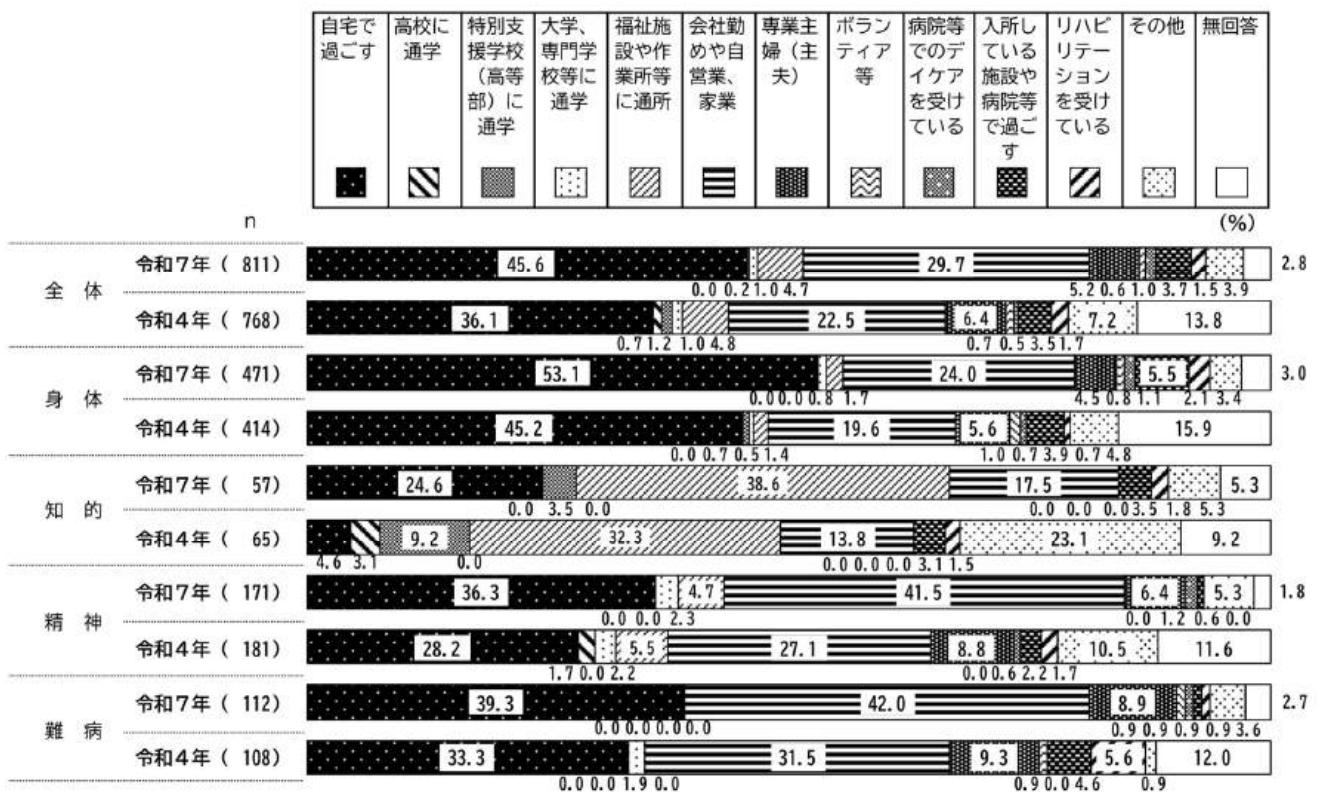
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、数値の増減はあるものの全体では大きな傾向の違いはみられない。

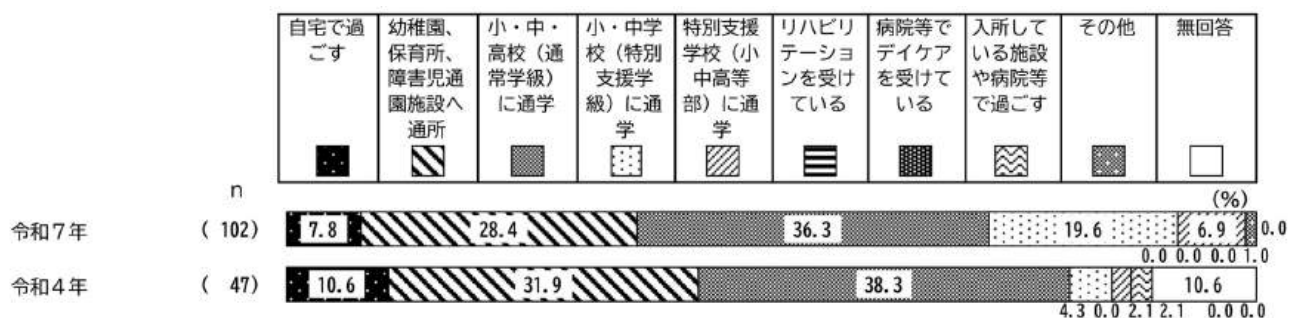
調査票種別でみると、「自宅で過ごす」が知的で20.0ポイント、精神で8.1ポイントそれぞれ増加し、「会社勤めや自営業、家業」が精神で14.4ポイント、難病で10.5ポイントそれぞれ増加している。また、知的で「特別支援学校（高等部）に通学」が5.7ポイント減少している。

障害児では、「小・中学校（特別支援学級）に通学」が15.3ポイント増加し、「幼稚園、保育所、障害児通園施設へ通所」が3.5ポイント減少している。

平日の日中の過ごし方（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



平日の日中の過ごし方（経年比較）＜障害児＞



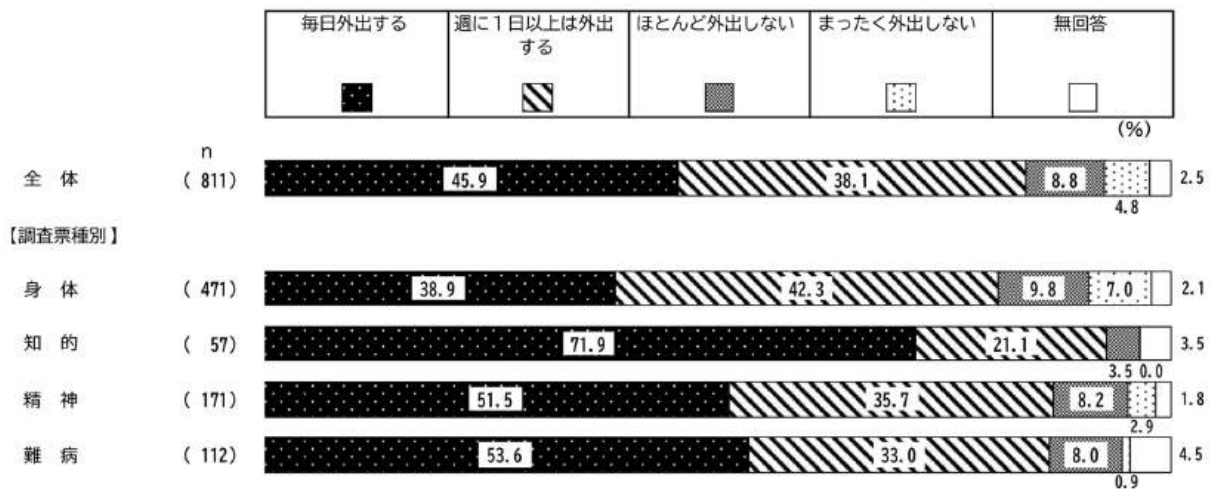
(2) 1週間の外出の頻度

問 あなたは、1週間にどのくらい外出しますか。(1つだけに○)

1週間の外出の頻度について、全体でみると、「毎日外出する」(45.9%)もしくは「週に1日以上は外出する」(38.1%)と回答した、週に1日以上外出する方の合計は84.0%となっている。一方、「ほとんど外出しない」が8.8%、「まったく外出しない」は4.8%となっている。

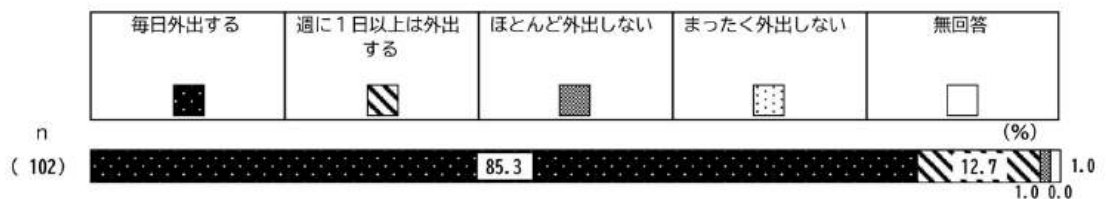
調査票種別でみると、知的では週に1日以上外出する方の合計が93.0%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

1週間の外出の頻度 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の1週間の外出の頻度をみると、「毎日外出する」(85.3%)もしくは「週に1日以上は外出する」(12.7%)と回答した、週に1日以上外出する方の合計は98.0%となっている。

1週間の外出の頻度 <障害児>



【経年比較】

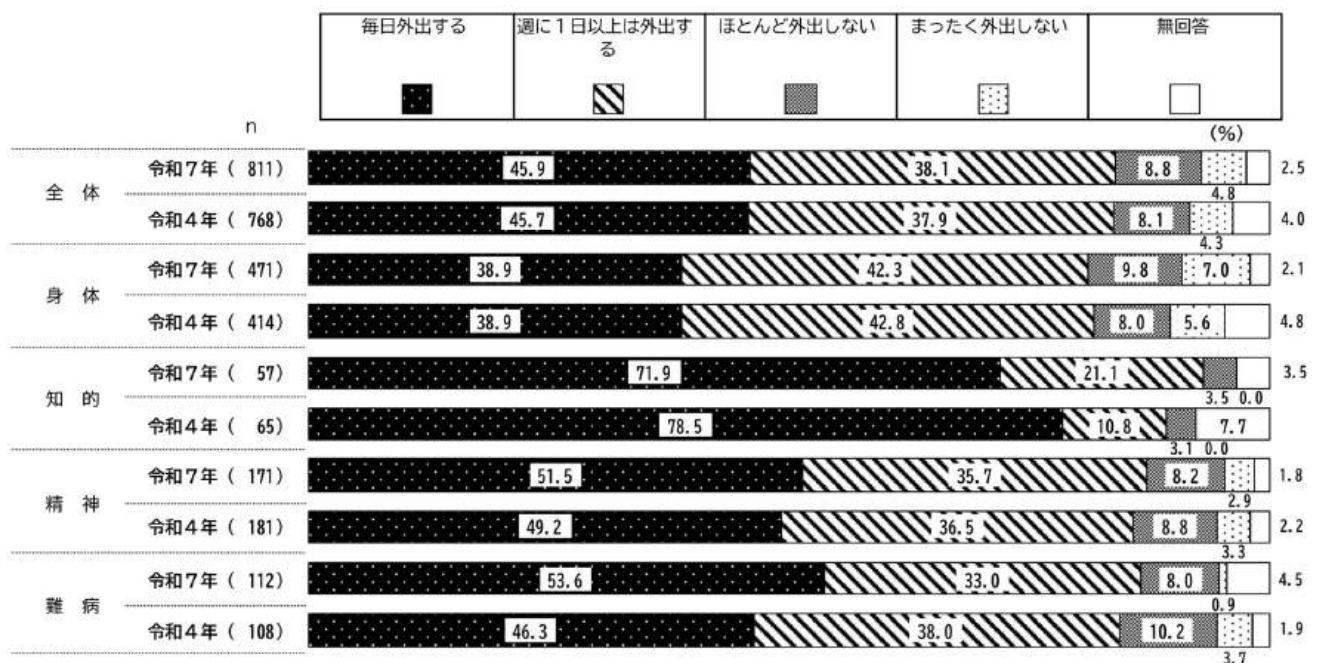
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられない。

調査票種別でみると、知的で「週に1日以上は外出する」が10.3ポイント、難病で「毎日外出する」が7.3ポイントそれぞれ増加している。

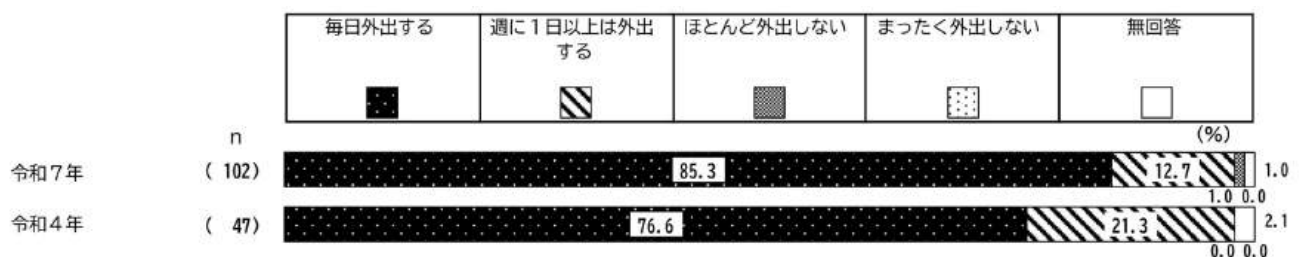
障害児では、「毎日外出する」が8.7ポイント増加し、「週に1日以上は外出する」が8.6ポイント減少している。

全体・障害児ともに8割以上は週に1日以上外出しているが、知的では「毎日外出する」が令和4年度から6.6ポイント減少と、他の種別と比べて大きく減少していることから、知的障害者へのより一層の支援（情報の音声化など、より一層理解しやすい情報発信や物理的環境の整備）が求められる。

1週間の外出の頻度（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



1週間の外出の頻度（経年比較）＜障害児＞



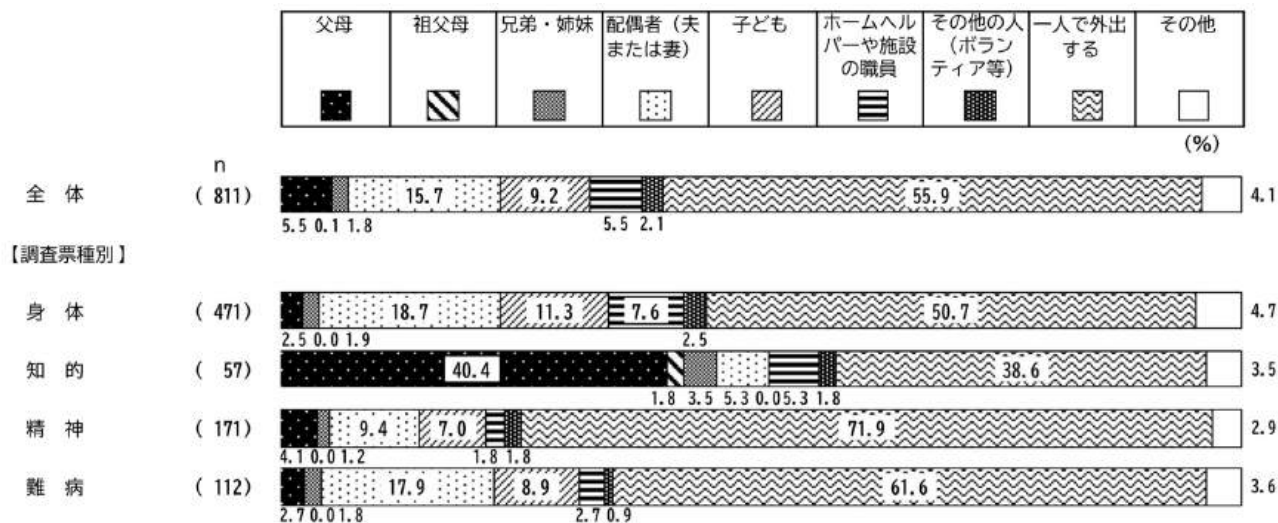
(3) 外出時の主な同伴者

問 あなたが外出するときの、主な同伴者は誰ですか。(1つだけに○)

外出時の主な同伴者について、全体でみると、「一人で外出する」が55.9%で最も高く、次いで「配偶者(夫または妻)」が15.7%、「子ども」が9.2%などとなっている。

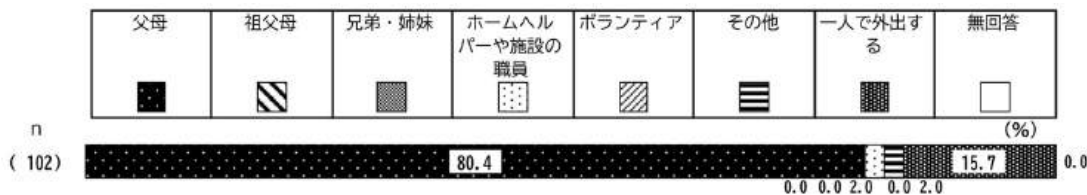
調査票種別でみると、知的では「父母」が40.4%、精神では「一人で外出する」が71.9%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

外出時の主な同伴者 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の外出時の主な同伴者をみると、「父母」が80.4%で最も高く、次いで「一人で外出する」が15.7%となっている。

外出時の主な同伴者 <障害児>



【経年比較】

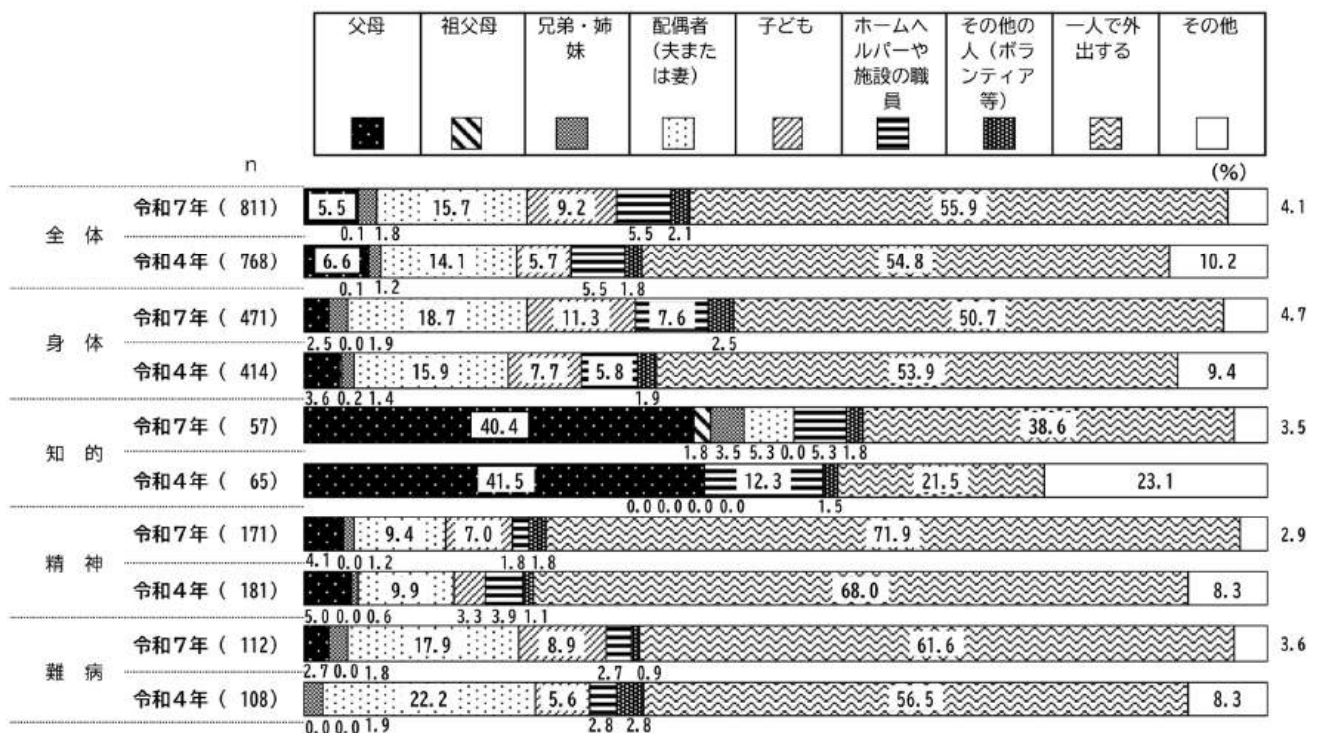
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられない。

調査票種別でみると、知的で「一人で外出する」が17.1ポイント、「配偶者（夫または妻）」が5.3ポイントそれぞれ増加し、「ホームヘルパーや施設の職員」が7.0ポイント減少している。

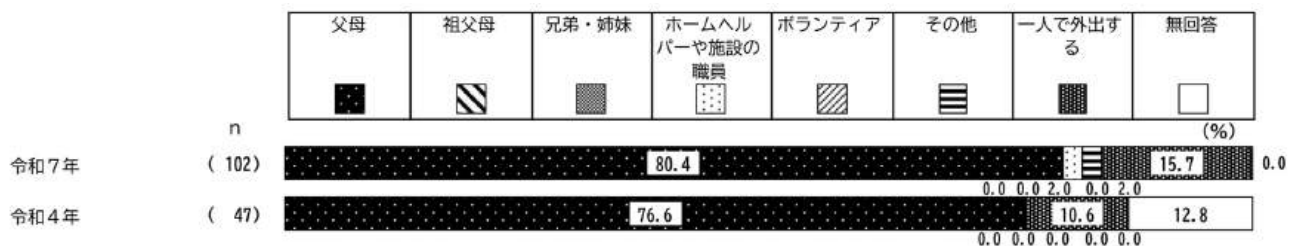
障害児でも「一人で外出する」が5.1ポイント増加しており、同様に増加傾向にある。

知的以外の種別で令和4年から「子ども」の割合が増加していることや、知的における「父母」の割合が令和4年から減少傾向にあるものの、他種別と比べて未だ高い傾向にあることから、家族以外のサポートを取り入れやすい環境・体制の構築が必要であると考えられる。

外出時の主な同伴者（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



外出時の主な同伴者（経年比較）＜障害児＞



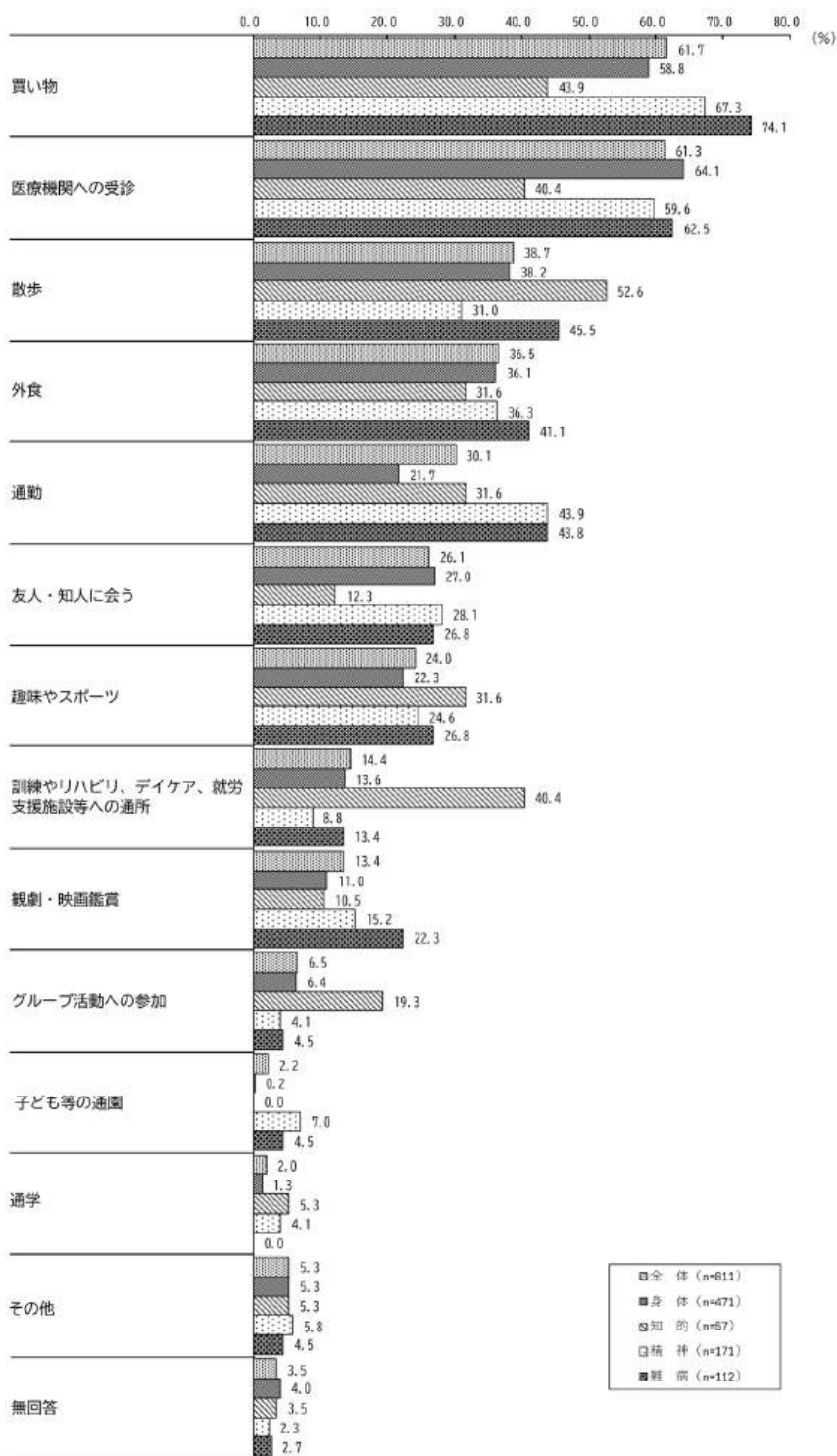
(4) 外出の主な目的

問 あなたはどのような目的で外出することが多いですか。(〇はいくつでも)

外出の主な目的について、全体で見ると、「買い物」が61.7%で最も高く、次いで「医療機関への受診」が61.3%、「散歩」が38.7%などとなっている。

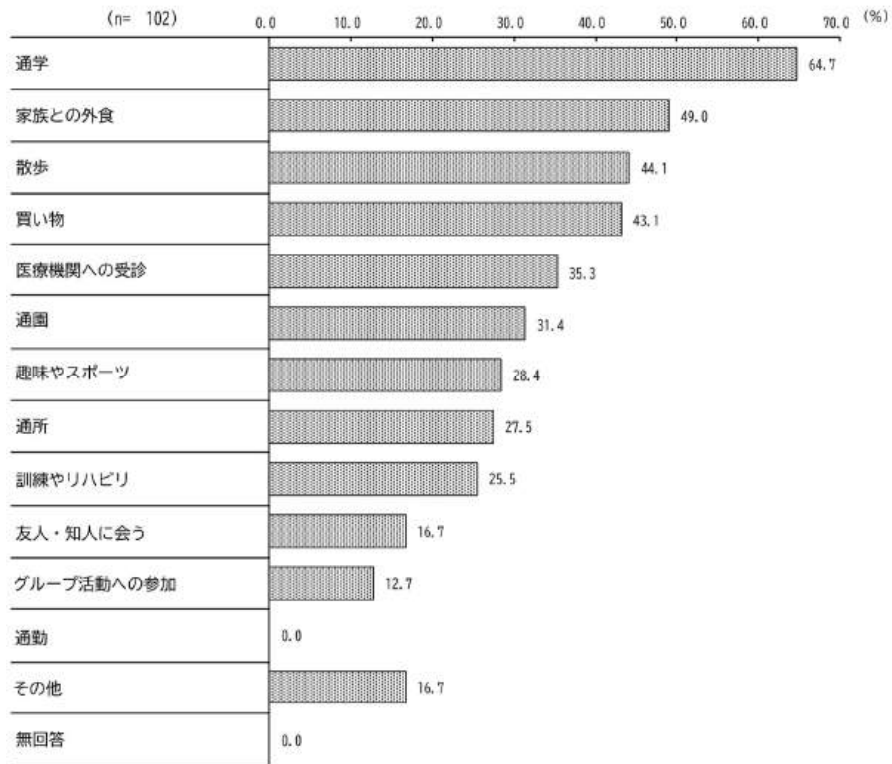
調査票種別で見ると、身体では「医療機関への受診」、知的では、「散歩」、精神、難病では「買い物」の割合が最も高くなっている。

外出の主な目的 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の外出の主な目的をみると、「通学」が64.7%で最も高く、次いで「家族との外食」が49.0%、「散歩」が44.1%、「買い物」が43.1%などとなっている。

外出の主な目的 <障害児>



【経年比較】

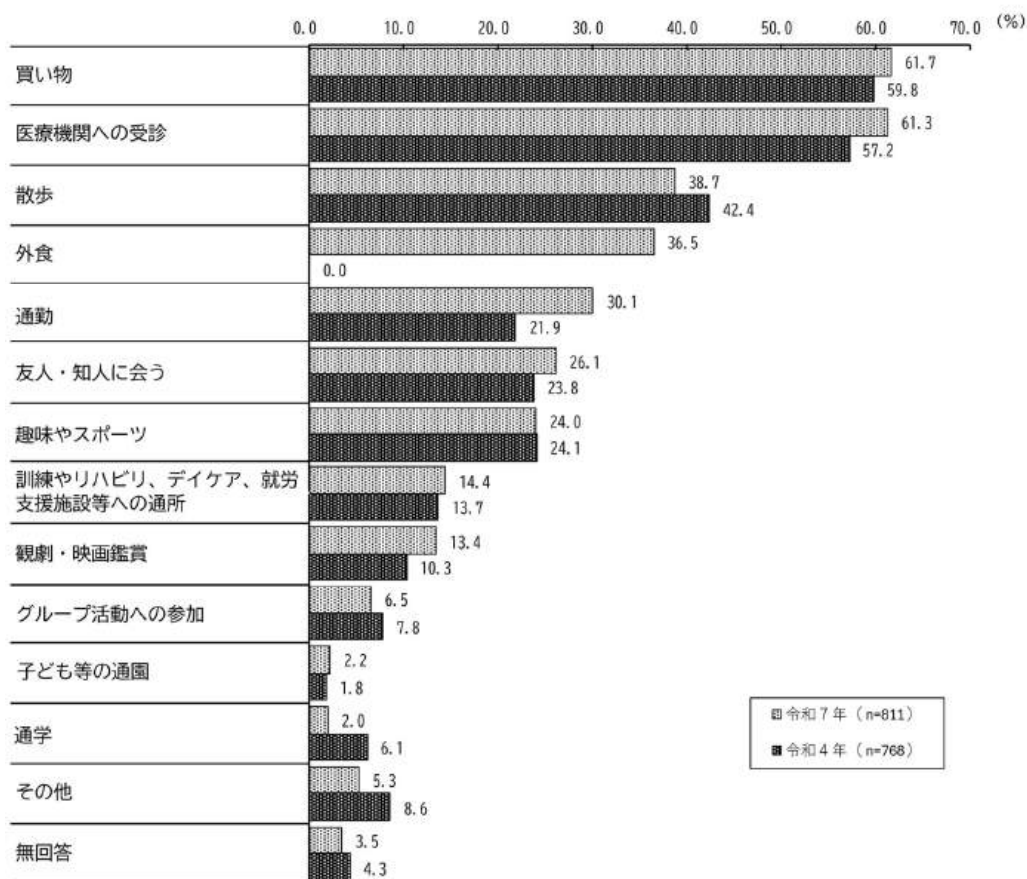
令和4年調査と比較すると、全体では、「通勤」が8.2ポイント増加し、「通学」が4.1ポイント減少している。今回から追加された「外食」は36.5%と上位だった。

調査票種別でみると、難病で「買い物」が13.0ポイント、知的で「散歩」が12.6ポイントそれぞれ増加している。また、「通勤」が全種別で増加傾向にあり、特に精神で19.0ポイント、難病で13.2ポイントそれぞれ増加している。一方、知的で「通学」が28.5ポイント減少している。

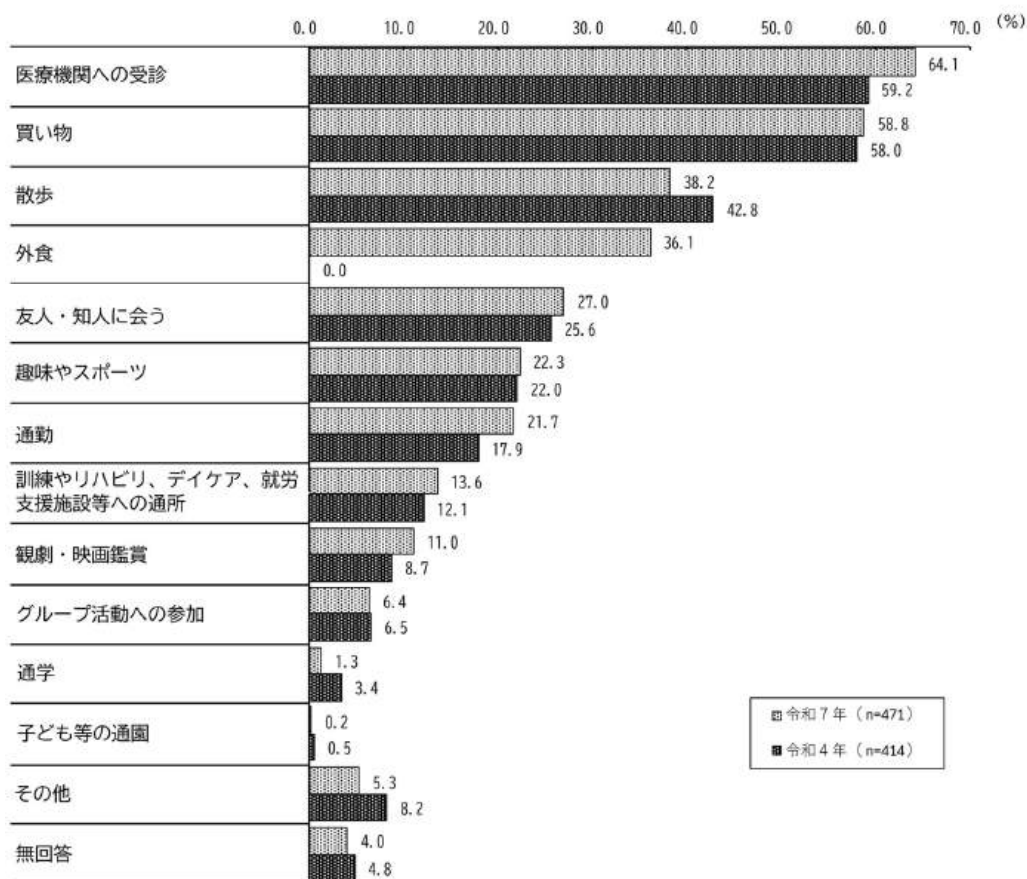
障害児では、「医療機関への受診」が11.9ポイント、「通学」が11.5ポイントそれぞれ増加しており、今回から追加された「家族との外食」も49.0%と上位だった。一方で「友人・知人に会う」は15.2ポイント減少している。

全体では令和4年調査に引き続き、「買い物」と「医療機関への受診」、障害児では「通学」と「家族との外食」のための外出が多い傾向にある。

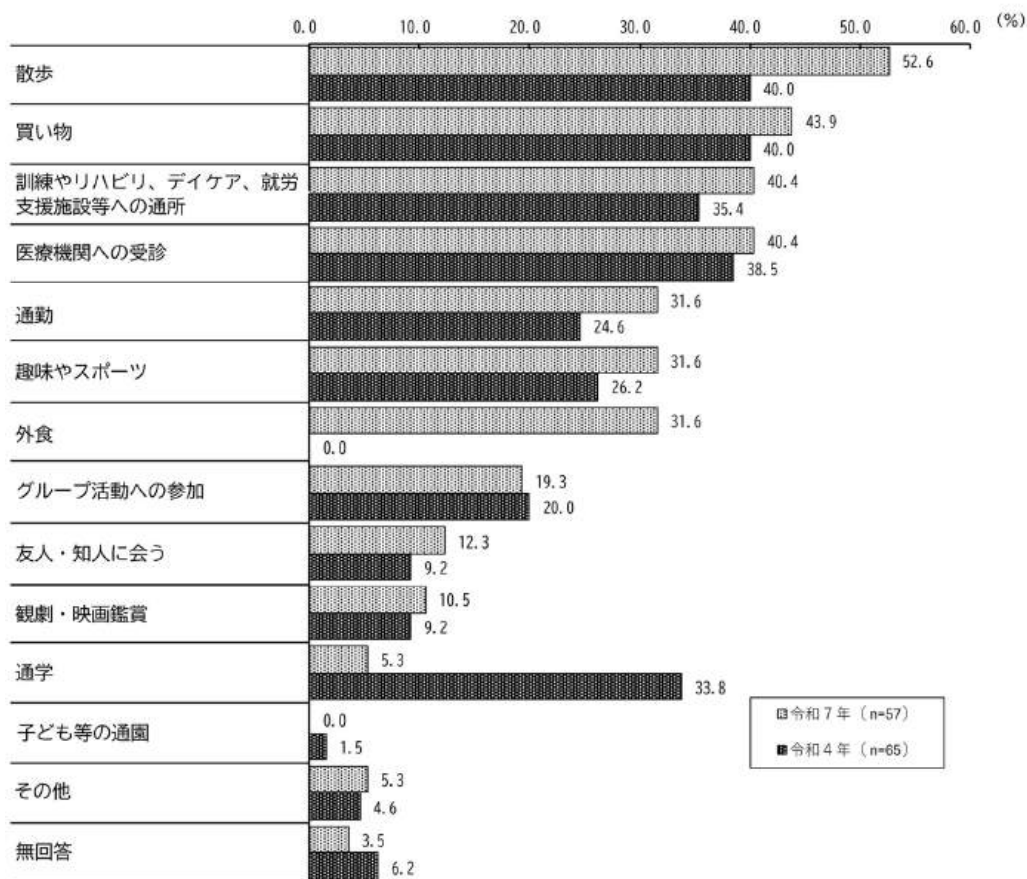
外出の主な目的（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



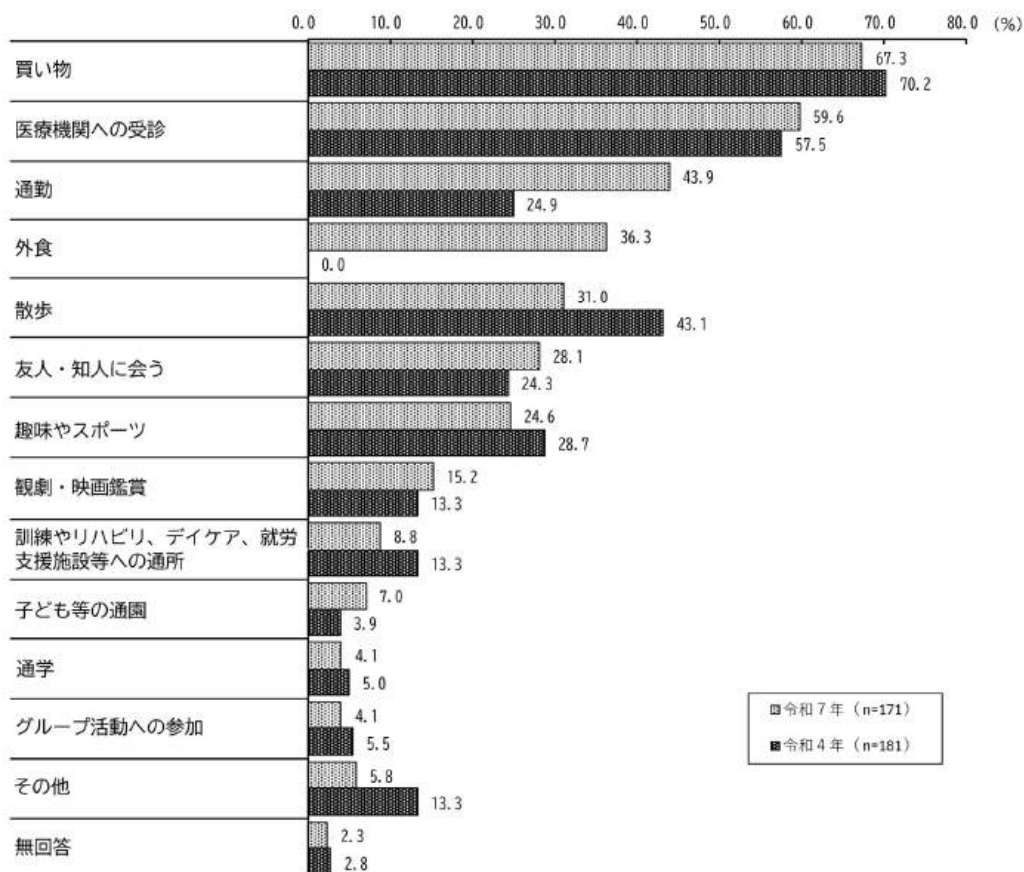
外出の主な目的（経年比較）＜身体＞



外出の主な目的（経年比較）＜知的＞



外出の主な目的（経年比較）＜精神＞



外出の主な目的（経年比較）＜難病＞

